

# 比 恵 68

-比恵遺跡群第127次・129次調査報告-

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1272集

2015

福岡市教育委員会

## 序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する比恵遺跡群の発掘調査報告書は127次の共同住宅建設と129次のガス管理設工事に伴う調査成果についての記録です。この調査では弥生時代中期から古墳時代にかけての集落を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助になり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から誠意を表する次第です。

2015年3月25日

福岡市教育委員会  
教育長 酒井龍彦

## 例言

- 本報告書は127次調査が博多区駅南4丁目120番1、120番3の共同住宅建設、129次調査が博多駅南4丁目地内のガス管理設工事に伴って2013年4月1日から6月14日（127次）までと、2013年8月26日から8月29日（129次）にかけて発掘調査を行った比恵遺跡群の報告書である。
- 本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の屋山洋が担当した。
- 遺構・遺物実測、遺構・遺物の写真撮影は屋山が、遺物実測を井上加代子、米倉法子、大庭友子が、製図等を屋山が担当した。
- 本書で用いた方位は磁北である。
- 本署に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

# 比 恵 68

-比恵遺跡群第127次・129次調査報告-

## 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1272集



遺跡略号 HIE-127/HIE-129

調査番号 1301/1321

### 127次調査

遺跡調査番号	1301	遺跡略号	0127	分布地図番号	東光寺37
調査地地番	福岡市博多区博多駅南4丁目120番1、120番3				
開発面積	368㎡	調査面積	359㎡	調査原因	共同住宅建設
調査期間	20130401～20130614		担当者	屋山 洋	

### 129次調査

遺跡調査番号	1321	遺跡略号	0127	分布地図番号	東光寺37
調査地地番	福岡市博多区博多駅南4丁目地内				
開発面積	30㎡	調査面積	24.2㎡	調査原因	ガス管理設
調査期間	20130826～20130829		担当者	屋山 洋	

## 本文目次

比恵 127 次		比恵 129 次	
Ⅰ. はじめに		Ⅰ. はじめに	37
Ⅱ. 調査の記録	1	Ⅱ. 調査の記録	39
1. 調査の経過	3	1. 調査の経過	39
2. 遺構と遺物	3	2. 調査の概要	39
1) 竪穴式住居	3	3. 遺構と遺物	39
2) 溝	9	1) 竪穴式住居	39
3) 土坑	16	2) 溝	39
3. 小結	25	3) その他の遺物	41
		4. 小結	42

## 挿図目次

比恵 127 次	第 1 図	周辺遺跡分布図	2
	第 2 図	調査地点位置図	2
	第 3 図	調査範囲図	4
	第 4 図	調査区全体図	5
	第 5 図	SC023 実測図	6
	第 6 図	SD042 実測図	7
	第 7 図	SC023・042 出土遺物実測図	8
	第 8 図	SC047 遺構・遺物実測図	10
	第 9 図	SC048 遺構・遺物実測図	11
	第 10 図	SD203 土層図	12
	第 11 図	SD203 出土遺物実測図 1	12
	第 12 図	SD203 出土遺物実測図 2	13
	第 13 図	SD203 出土遺物実測図 3	14
	第 14 図	SD203 出土遺物 4・SD263 出土遺物	15
	第 15 図	土坑実測図 1	17
	第 16 図	土坑実測図 2	18
	第 17 図	土坑出土遺物実測図 1	19
	第 18 図	土坑出土遺物実測図 2	20
	第 19 図	土坑出土遺物実測図 3	22
	第 20 図	土坑出土遺物実測図 4	23
	第 21 図	包含層出土遺物実測図	24
	第 22 図	その他出土遺物	25
比恵 129 次	第 22 図	調査区位置図	37
	第 23 図	調査範囲図	38
	第 24 図	調査区全体図	折り込み
	第 25 図	竪穴式住居実測図	40
	第 26 図	出土遺物実測図	41

## 図版目次

図版 1	1. I 区全景	2. II 区全景						
図版 2	1. II 区全景	2. 竪穴式住居切り合い状況						
図版 3	1. SC022	2. SP132・133・134	3. SP053	4. SP053	5. SC042	6. SC042	7. SK198	8. SK198 土層
図版 4	1. SC047	2. SC048	3. SK036	4. SK046-A	5. SK046-下層	6. SK081	7. SK087	8. SK128 遺物出土状況
図版 5	1. SK129	2. SK137	3. SK137 下層	4. SK187 遺物出土状況	5. SK230	6. SK239	7. SK298	8. SP164
図版 6	1. SD203	2. SD203 土層 A	3. SD203 土層 B	4. SD261 土層	5. SD263	3	6. SD263 土層	
	7. SK203 遺物出土状況	8. 調査前状況						
図版 7	1. 調査区全景	2. 調査前状況						
図版 8	調査区全景							
図版 9	1. 住居部分拡大							
図版 10	1. 調査区全景	2. 竪穴住居南壁土層西側	3. 竪穴住居南壁土層中央部	4. 竪穴住居南壁土層東側	5. SD010			

# 1. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

平成24年(2012年)10月30日付けで有限会社ケンソーから博多区博多駅南4丁目120-1、120-3、121-1の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財有無の事前調査照会(24-2-721)が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である比恵遺跡群内に位置し、同敷地内でも平成8年(1996年)に59次調査が行われており、遺構が存在することが明らかであることから埋蔵文化財審査課では建設に先だって埋蔵文化財の発掘調査を行い記録保存を図ることが必要であると判断して協議を行った。その結果平成25年4月1日から6月14日にかけて発掘調査を行った。調査期間中は休憩所や水道の設置など原因者及び関係各位の多大なご協力を頂いた。記して感謝したい。

## 2. 調査の組織

調査主体 福岡市教育委員会(発掘調査 平成25年度:整理報告 平成26年度)

調査統括 福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課

埋蔵文化財調査課長 宮井善朗(平成25年度)

常松幹雄(平成26年度)

同課調査第2係長 榎本義嗣(平成25年度)

同課調査第1係長 吉武 学(平成26年度)

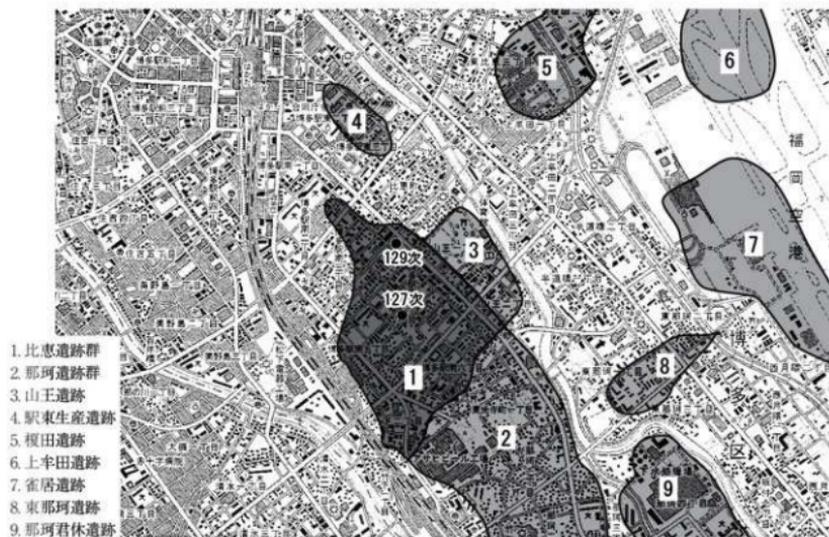
庶務 埋蔵文化財審査課管理係 川村啓子(平成25・26年度)

調査担当 埋蔵文化財調査課 屋山 洋

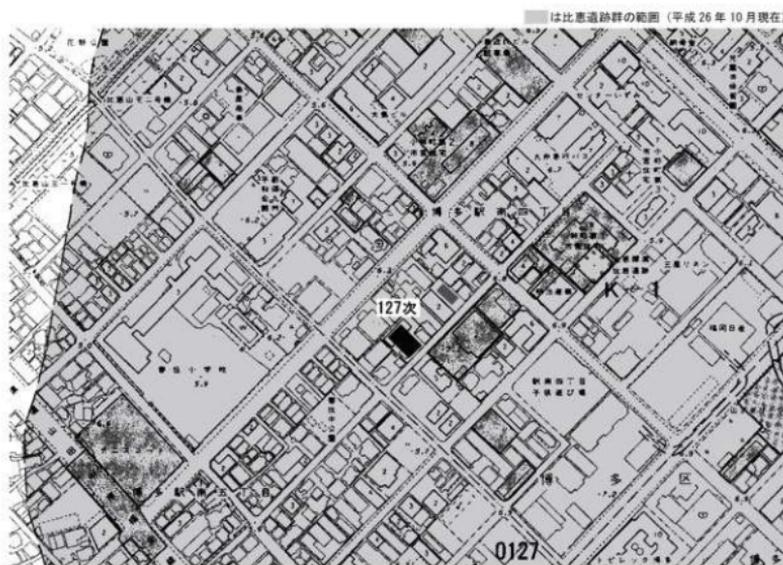
作業員 石川洋子 浦仲英 大坂布由子 岡部安正 河原明子 北条こず江 吹春憲治  
桑原美津子 増田ゆかり 中村桂子 中村尚美 岡部安正 藤原俊夫 芹川淳子  
田中トミ子 堤正子 増田ゆかり 中村健三 竹内武俊 林春治郎 鷺津真二郎  
高手與志子 徳園さやか 堀出幸 梶原慎司  
整 理 井上加代子 大庭友子 米倉法子 濱石正子 坂口龍子

## 3. 調査区の立地と環境

比恵遺跡群は福岡平野の中央を博多湾に向かって流れる那珂川と御笠川に挟まれた標高5~10mの低位丘陵上に立地する。丘陵は花崗岩の風化礫層を基盤とし、その上に堆積した阿蘇山の火砕流である八女粘土層と鳥栖ローム層からなる。近隣の遺跡としては春日市から博多湾に向かって伸びる同一の丘陵上に博多湾側から比恵遺跡群、那珂遺跡群、五十川遺跡、井尻B遺跡、寺島遺跡、須玖岡本遺跡と続いており、奴国の中心である春日市の須玖遺跡群一帯と博多湾を結ぶ連続した丘陵上だけに弥生時代の遺構が多く密に分布する。また、青銅製品が多く出土すると共に鋳型や埴輪など青銅器製造関連遺物も多く出土する地域である。比恵遺跡群は南側に隣接する那珂遺跡とは浅い谷で区別されている。遺物は旧石器時代のナイフ型石器が出土しているが、遺構は現在縄文晩期の突帯文期の遺構が最も古く丘陵縁辺に分布する。弥生時代中期以降は集落は丘陵全体に広がり、銅簾や青銅製鋤等の青銅製品と共に青銅器の埴輪や鋳型が出土しており、青銅器関連施設が作られるなど奴国の拠点集落のひとつとなっている。古墳時代後期から古代にかけては遺跡北半に「那津官家」とされる大型掘立柱建物とそれを囲む柵列が築かれるようになる。



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査地点位置図 (1/4,000)

## II. 調査の記録

### 1. 調査の経過

申請地である博多駅南4丁目120番1、120番3の敷地面積は1200㎡を測る。発掘調査は建物基礎の掘削により遺構が破壊される敷地西半を対象とするが、このうち北側の一部は平成8年に行われた59次調査により発掘調査が終了しているので残りの367㎡を調査対象とした。また隣地境界との境界にスペースが必要であったため、実際の調査面積は359㎡である。

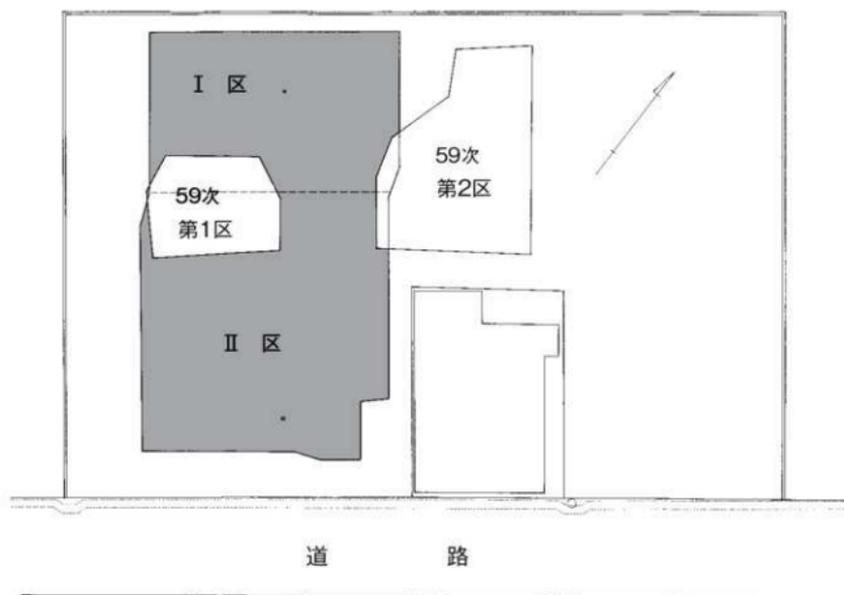
発掘調査は廃土処理のため、調査区を北西側のⅠ区と南東側のⅡ区に分け、4月1日に機材の搬入と重機によるⅠ区の表土剥ぎを行った。事前の確認調査では現地表面から50cm程で鳥柄ローム面に達する予定であったが、攪乱が深くまで及んでおり、現地表面から1.8m前後でローム面に達した。2日以降は攪乱の除去作業を行ったが、Ⅰ区では明確な遺構を確認できなかったため5日に全体写真を撮影してⅠ区を終了し、4月8～9日に打って返しを行い10日からⅡ区の調査を開始し、15日まで攪乱と包含層の掘り下げをした後、16日から遺構の掘り下げを開始した。調査区の南西部に少なくとも4軒の竪穴式住居が集中していたので、切り合いの確認と掘り下げに手間取り、5月中旬までは竪穴式住居の掘り下げを中心に作業を行った。5月末からはⅡ区東側の溝と土坑の掘り下げを中心に行った。特にSD203とその周辺は出土遺物が多く、掘り下げにも時間がかかった。6月6日にⅡ区の全景写真を撮影し、翌日からは遺物の取り上げや、ベルトの取り外しとその下の遺構の掘り下げ等を行った。6月13日に現場の埋め戻しと機材の片付けを行い、6月14日に機材の撤去を行って発掘調査を終了した。

### 2. 遺構と遺物

各遺構から出土した遺物に関してはP26～30の表1～5に記載している。

#### 1) 竪穴式住居

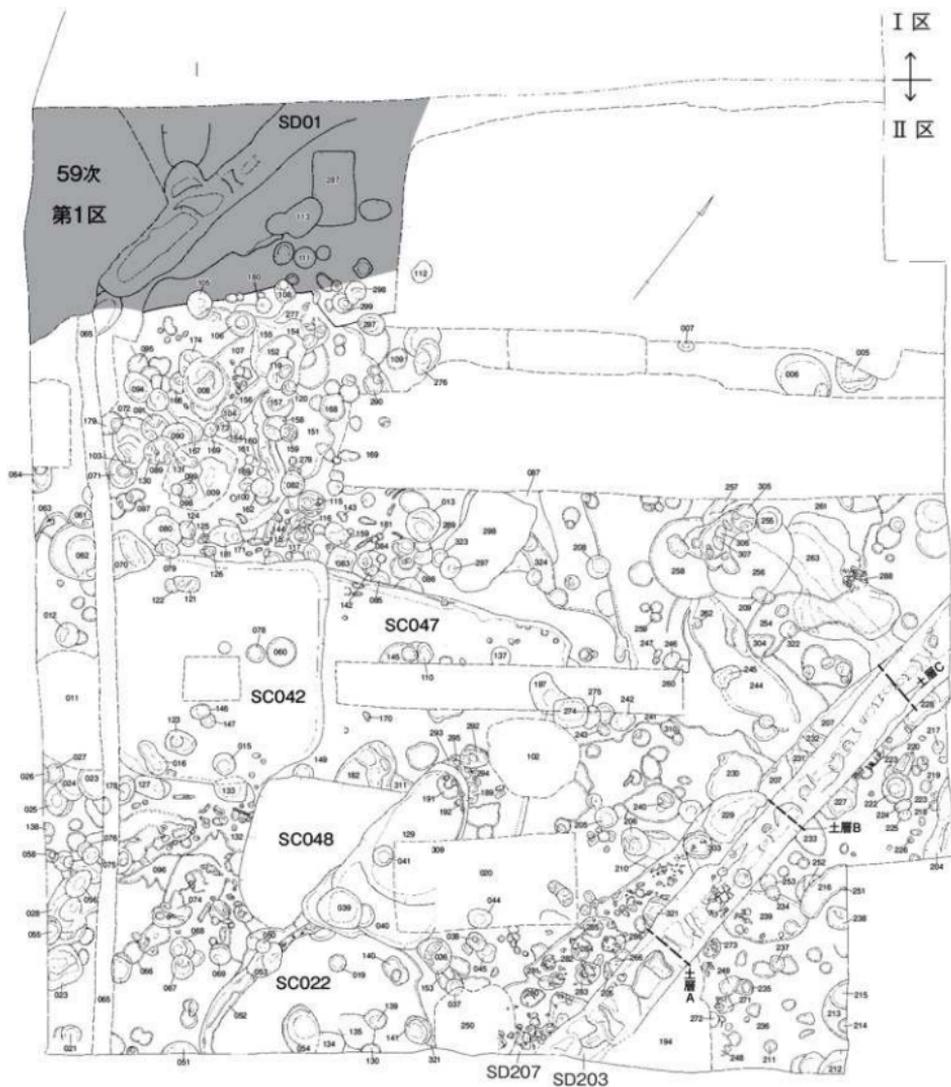
**SC022 (第5図)** 調査区の南西隅に位置し、遺構の約半分が調査区外に延びる。東側は攪乱により遺存状態が悪い。平面形は円形と思われ、現状で径380cmを測る。床面までの深さは7cmを測る。炉はSK054で東西方向に長い楕円形を呈す。東端が調査区外に延びることから全長は不明であるが、現状で東西83cm、南北61cm、床面からの深さ13cmを測る。北側を除く3方に巡るテラスが床面から2cmの深さにあり、テラス部分からの掘り込みは東西60cm強、南北49cmを測る。埋土は黒褐色を呈し、底面が22×17cmの範囲で赤変していた。柱穴は壁沿いに並ぶSP140・141・C・053の4基で、それぞれ主軸は接する壁面に並行する。SP140は埋土は黒褐色、平面は楕円形を呈す。長径53cm×短径41cm、深さ45cmを測るが、床面直下で北側にテラスを持ち、実際の掘方は36×34cm前後である。SP141は埋土が黒褐色、平面形は隅丸長方形を呈す。長径48×33cm、床面からの深さ32cmを測り、底面中央部に径21cm、深さ4cmの円形の掘り込みがある。Cは遺物が出土していないので遺構番号がついていない。埋土は黒褐色上にロームブロックを多く含む平面形は楕円形を呈す。長径37cm、短径29cm、床面からの深さ31cmを測る。053は埋土が褐色を呈す。2基の柱穴が切り合っており、南側が053A、北側を053Bとし、053Aの方が古い。053Aは約径48×45cmで床面からの深さが36cm、053Bは径が約45×37cmで深さ42cmを測る。いずれも壁溝を切っており、SC023に属するものである。柱穴Cから南側では壁際に沿って溝が巡る。溝は幅12～35cm、深さは1～3cmを測り、底面には若干の凹凸がみられる。埋土は黒褐色を呈す。壁溝がある住居西側ではSP053から南側に柱穴がなく、北側に比べると間隔が空く。床面中央部では炉のSK054に



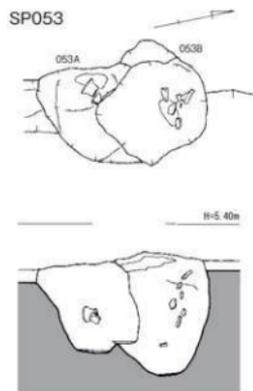
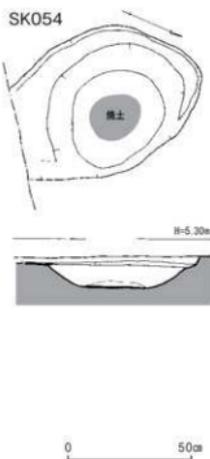
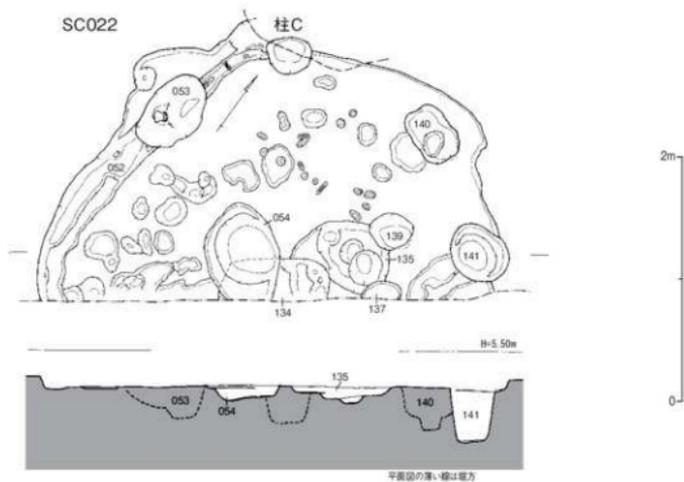
第3図 調査範囲図 (1/300)

切られるSK134とSK135を確認した。埋土は茶褐色で焼土等はみられなかった。住居に先行する遺構である可能性も考えられる。炉と壁の間に径7～26cm程の小ピットが多数存在する。深さは1～3cmを程で、底面の鳥栖ルームが若干汚れた暗褐色を呈す。遺物は出土していない。柱穴SP140に切られており、築造時の掘り下げてある可能性が高い。出土遺物(第7図 001～005)。001～003は住居埋土から出土した。001・002は甕である。001は復元口径26cmを測る。橙色を呈し、調整は内外面とも横ナデを施す。002はにぶい黄褐色を呈し、調整は全面風化のため不明である。003は蓋である。上部径4.6cmを測る。色調は外面橙色、内面は灰黒色を呈す。調整は外面が縦ハケ、内面はナデを施す。004は053Bから出土した甕口縁である。にぶい黄褐色を呈す。005は砥石である。弥生時代中期中頃と考えられる。

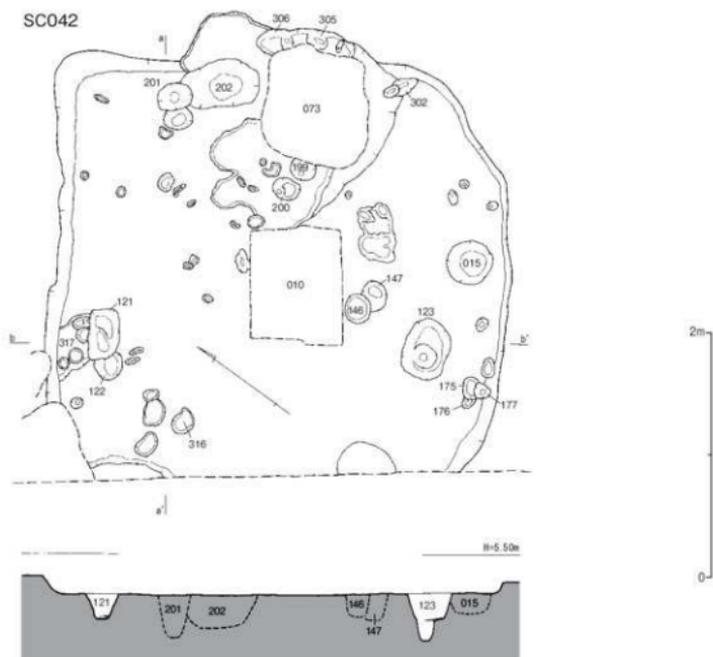
**SC042 (第6図)** 調査区の南側に位置し、SC047・048を切る。3軒とも似た埋土で、切り合いの決定にはかなり時間を要した。掘り下げ当初は、2軒の切り合いである可能性も考えて、一部をSC046として掘り分けていたが、床面が平坦で切り合いによる段差等もみられないため1軒にまとめて報告する。平面形は方形を呈し、主軸はN-36°-Wを測る。西縁は攪乱で不明だが、北縁と東縁はやや直線的で、東縁中央は若干外側に膨らむ。南縁は緩やかなカーブを描く。大きさは、a-a'で340cm、b-b'で368cm、検出面から床面までの深さは15cmを測る。埋土は黒褐色土でロームブ



第4図 調査区全体図 (1/80)

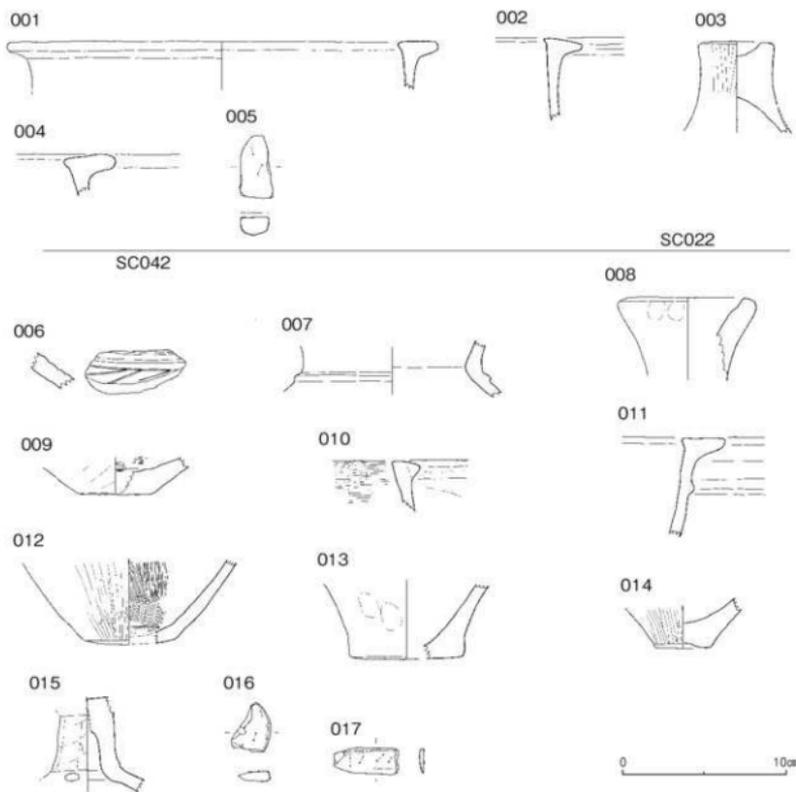


第5図 SC022 実測図 (1/40・1/20)



第6図 SC042実測図(1/40)

ロックを多量に含む。床面中央に1m四方の攪乱があり、そのためか炬は確認できなかった。柱穴はSP121、123、202等がその可能性があるがSP121・123を2本柱の主柱穴とすると中央から西側にズレており、4本柱とすると東側に適当な柱穴が見当たらないため、詳細は不明である。そのSP121は主軸を北壁に沿い、平面形は長方形を呈す。長径41cm、短径26cm、床面から深さ19cmを測る。底面北側には底面から高さ1cmのところにてラスをもつ。SP123は主軸を南壁に沿い長径51cm、短径37cm、床面からの深さ23cmを測る。底面中央からやや西側に径21cm、24cmの掘込みを持つ。埋土は黒褐色を呈す。その他の遺構としてはSC022同様床面で深さ1~3cm程の小ピットを確認した。土色はロームが僅かに汚れた暗褐色を呈す。これも317など柱穴に切られるものがあり、築造に伴う掘り込みの可能性が高いといえる。出土遺物(第7図)006~017)。006・007は壺頸部で淡黄褐色を呈す。006は綾杉文とみられる線刻を描き、007は突帯がつく。008は器台で復元口径8.4cmを測る。淡黄褐色を呈す。009は壺底部である。復元底径4.6cmを測る。外面はにぶい赤褐色で斜め方向のケズリ、内面は橙色で細かなハケ目が見られる。010・011は甕口径である。010は黒色を呈し011は橙色を呈す。012~014は甕底部である。012は復元底径5.6cmで、外面は黒色、内面はにぶい黄褐色を呈す。013は復元底径6.8cmで、外面は橙色、内面は灰色を呈す。014は復元底径3.4cmを測る。外面橙色で内面灰黒色を呈し外面は縦ハケ、内面は指ナデを施す。015は高環脚部で橙色を呈す。表面はヘラで成型後ナデを施す。下端には径1cmの孔を推定で3ヶ所穿つ。016は滑石製で紡錘車と思われる。推定径は5cmで厚さ6mmを測る。017は粘板岩で全面



第7図 SC023・042 出土遺物実測図 (1/3)

に研磨がみられる。石包丁の破片と思われる。

**SC047 (第8図)** II区の中央付近に位置する。SC042や攪乱等で西と南の2辺が削平をうけている。平面形は東西に長い長方形と推定され、主軸はN-70°-Eを測る。現状で東西438cm、南北350cm、床面までの深さ16cmを測る。埋土は黒褐色で、床面から浮いてロームの小ブロックを含む層がみられる。貼床、壁溝、ベッド状遺構などはみられない。主柱穴は不明で、床面は小ピットもほとんどみられず、ほぼ平坦である。出土遺物(第8図018～022)。018～022は甕である。018は復元口径28cmで橙色を呈す。019は灰黄色、020は橙色、021は橙色を呈す。内面に指オサエの痕跡が残る。022は橙色を呈し3mm以下の砂の他に雲母片と暗赤褐色粒を含む。022・023は甕棺の可能性が有る。

**SC048 (第9図)** 調査区の南西部に位置し、SC042に切られる。平面形は東西に長い長方形を呈し、主軸はN-66°-Eを測る。長径334cm、短径250cm、床面までの深さ26cmを測る。埋土は黒褐色を呈し、貼床や壁溝などはみられない。195は南縁中央に接する楕円形の掘込みで、長径48cm、短径35cm、床面からの深さ42cmを測る。埋土は黒褐色を呈しロームブロックを多く含む。住居の入り口に伴う

掘込みと思われるが、それにしては深い。312は床面南西隅の長方形の掘り込みで、長径42cm、短径22cm、深さ5cmを測る。やや浅いものの屋内貯蔵穴か。床面には小ビットがみられるものの、明確に柱穴と思われる掘込みはみられない。出土遺物（第9図 023～033）。023～028は甕口縁である。023は橙色を呈し0.3～3mmの砂を含む。024は外面がにぶい黄褐色、内面淡黄褐色を呈す。調整は不明である。028は橙色を呈し内面に縦ハケの痕跡が残る。029は甕底部である。底径6.8cmを測る。調整は外面が縦ハケで、内面はナデと思われる。030・031は壺底部である。030は底径7.6cmを測り、にぶい橙色で外面は赤色顔料を塗布する。外面が横方向のミガキ、内面はナデを施す。031は底径5.5cmを測る。淡黄褐色を呈す。032は粘板岩製の柱状片刃石斧である。現存長3.5cm、幅1.1cm、最大厚1.0cmを測る。033は花崗岩製の凹石である。現存長6.3cm、幅5cm、高さ3.6cmを測る。両面と側面に凹みがみられる。

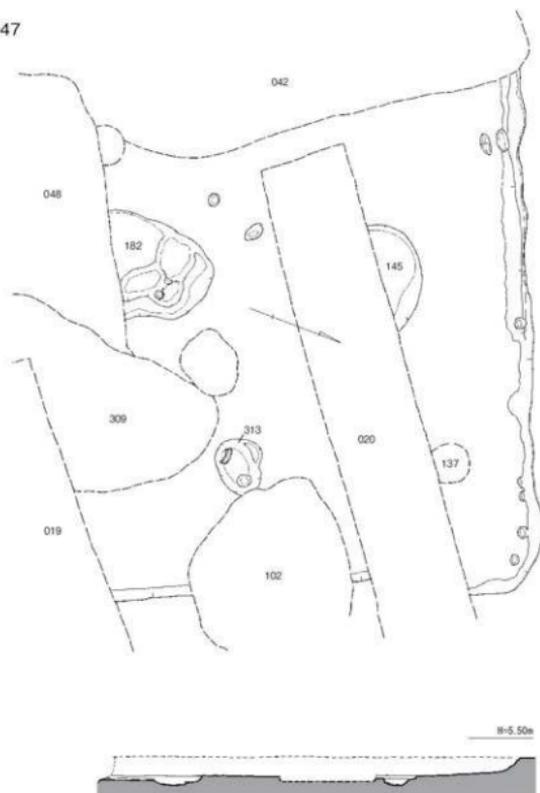
## 2) 溝

**SC203(第10図)** 調査区の東端に位置する。主軸はN-4°-Eとほぼ南北方向を示す。調査区内での長さ10m、幅87cm、深さ67cmを測る。底面は凹凸が著しく、中には柱穴状を呈する掘り込みもある。土層断面の形状は一定では無く、土層Aは逆台形、土層Bは箱形、土層Cは逆台形を呈す。59次第1区のSD02と並行し、両溝間は13mを測る。両溝とも底面に凹凸があるが、平均すると59次調査のSD02の底面が50～60cm程深い。出土遺物（第11～14図034～082）。034～042は壺である。034は復元口径17.6cmを測り、淡褐色を呈す。035は復元口径17cmを測り、外面淡灰褐色、内面は淡褐色で少し赤味を帯びる。036は復元口径16cmを測り、淡黄褐色を呈す。037は復元口径15.6cmを測る。橙色で調整は外面胴部が細かな縦ハケ、内面はヘラケズリである。038は頸部と肩部の境に突帯がつく。039は復元口径17.2cmを測り、淡褐色を呈す。040は復元口径26.8cmを測る。橙色を呈し口縁に黒斑がある。041は胴部上半で復元胴径33cm前後を測る。外面は淡褐色～暗灰色、内面は淡灰色を呈す。肩部はナデ後に2枚貝の復縁の圧痕を2段に施す。042は壺底部もしくは鉢である。底径4.2cmを測る。少し赤味を帯びた淡褐色を呈す。043～045は台付の鉢もしくは甕である。043は底径5cmを測り、浅黄褐色を呈す。044は復元底径7.8cmを測る。045は復元底径6cmを測る。淡褐色を呈す。046～050は甕である。046は復元口径19cmを測る。肩部に波状文を施す。047は復元口径18.2cmを測る。048は復元口径16cmを測る。白褐色で調整は不明である。049は復元口径16.7cmを測る。淡褐色を呈し、内面は焦げ付きのためか灰色化している。050は復元口径12.8cmを測り、淡褐色を呈す。051・052は鉢、053～055は椀、056～066は高坏、067～071は甕棺、072は銅鏝である。073～076は凹石で076は砥石の転用である。077は叩き石、078、079は壺底部、080は器台、081・082は砥石である。

**SD207(第4図)** SD203に切られる。調査区内ではほぼ重なっているが、若干方位が異なりN-8°-Eを測る。幅は1.3m前後で深さ3～7cmを測る。底面には径5～30cm程の窪みが多く見られ、そこから土器小片が多数出土した。SD203に先行する溝で遺物は弥生中期の甕などを主とするが古墳時代前期の土器片も含んでおり、SD203との時期差はあまりないと思われる。出土遺物（第17図098～100）。098は器台、099・100は壺口縁である。

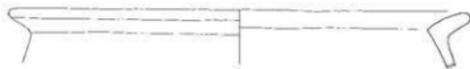
**SD263(第4図)** II区の東側に位置する溝状を呈する土坑で、東端をSD203に切られる。ほぼ東西に長い溝所を呈し、現状で東西3.0m、南北0.9～1.3m、深さ66cmを測る。断面はU字状で暗褐色を呈す。土器片は弥生中期中頃で若干後期の土器片を含むが、263を切るSK288で中期の甕、壺、甕棺片が出土しているため、遺構としては中期に属し、後期の遺物は混入の可能性が高いものと思われる。出土遺物は第14図083～093である。

SC047



1:5.50m

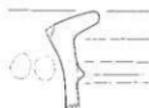
018



019



021



022



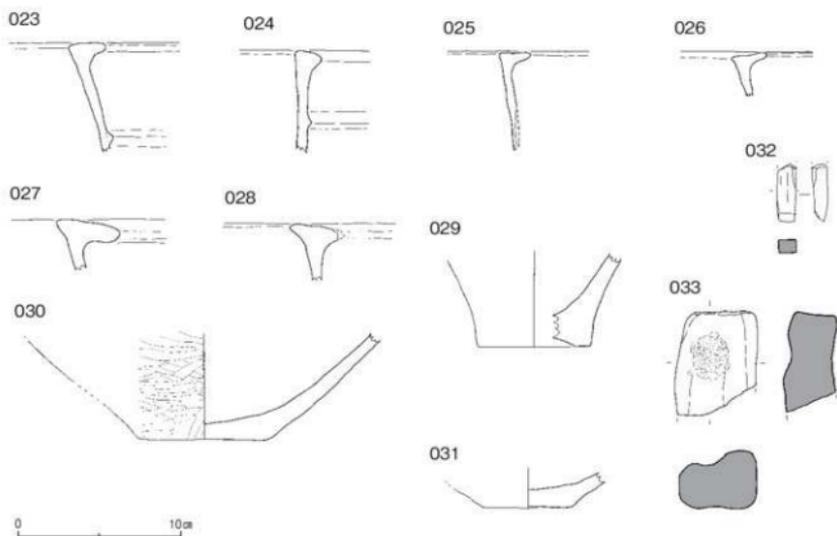
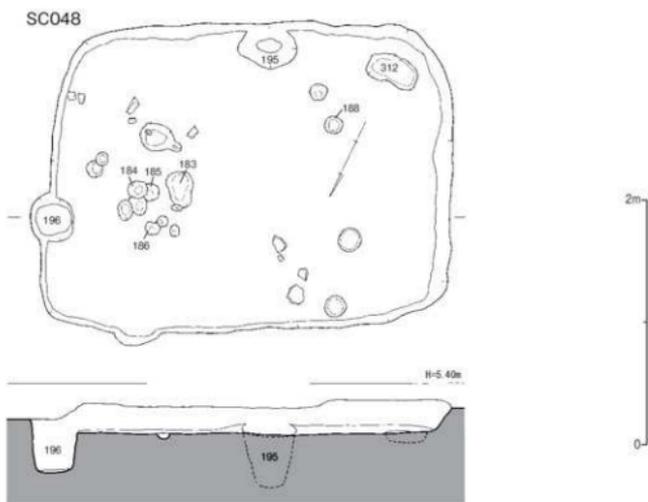
020



10cm



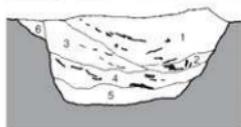
第 8 図 SC047 遺構・遺物実測図 (1/40・1/3)



第9図 SC048 遺構・遺物実測図 (1/40・1/3)

SD203 土層A

H-5.30m



- 1 暗褐色土 土器片多い、粗砂を多く、黄褐色土を少量含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土を多く含む
- 3 暗褐色土 粗砂と黄褐色土をほとんど含まない
- 4 暗茶褐色土 粗砂と黄褐色土を含まない
- 5 黄褐色土 ロームのブロック 土器片少量しか含まない
- 6 茶褐色土 粗砂多く含む

SD203 土層B

H-5.30m

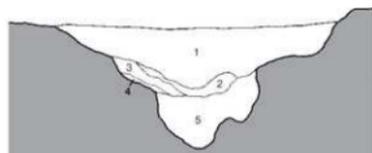


- 1 暗褐色土 土器片多 少量の炭化物と大量の白色砂を含む
- 2 暗黄褐色土 8層と同じ
- 3 黒褐色土 土器小片多 少量の炭化物と大量の白色砂を含む
- 4 黒褐色土 土器片少 少量の炭化物を含む
- 5 黒褐色土 白色砂とロームブロックを少量含む
- 6 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む
- 7 黄褐色土 わずかに灰色土を含む
- 8 暗黄褐色土
- 9 暗黄褐色土 粗砂少量含む
- 10 黒褐色土

50cm  
0

SD203 土層C

H-5.40m



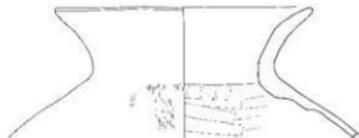
- 1 黒褐色土 白色砂多い、土器小片と炭化物を少量含む
- 2 暗黄褐色土 (ローム)
- 3 暗茶褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 暗茶褐色土 1~2mmのロームを少量含む

第10図 SD203土層図 (1/20)

034



037



035



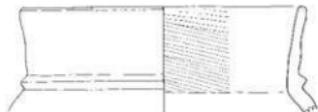
038



036

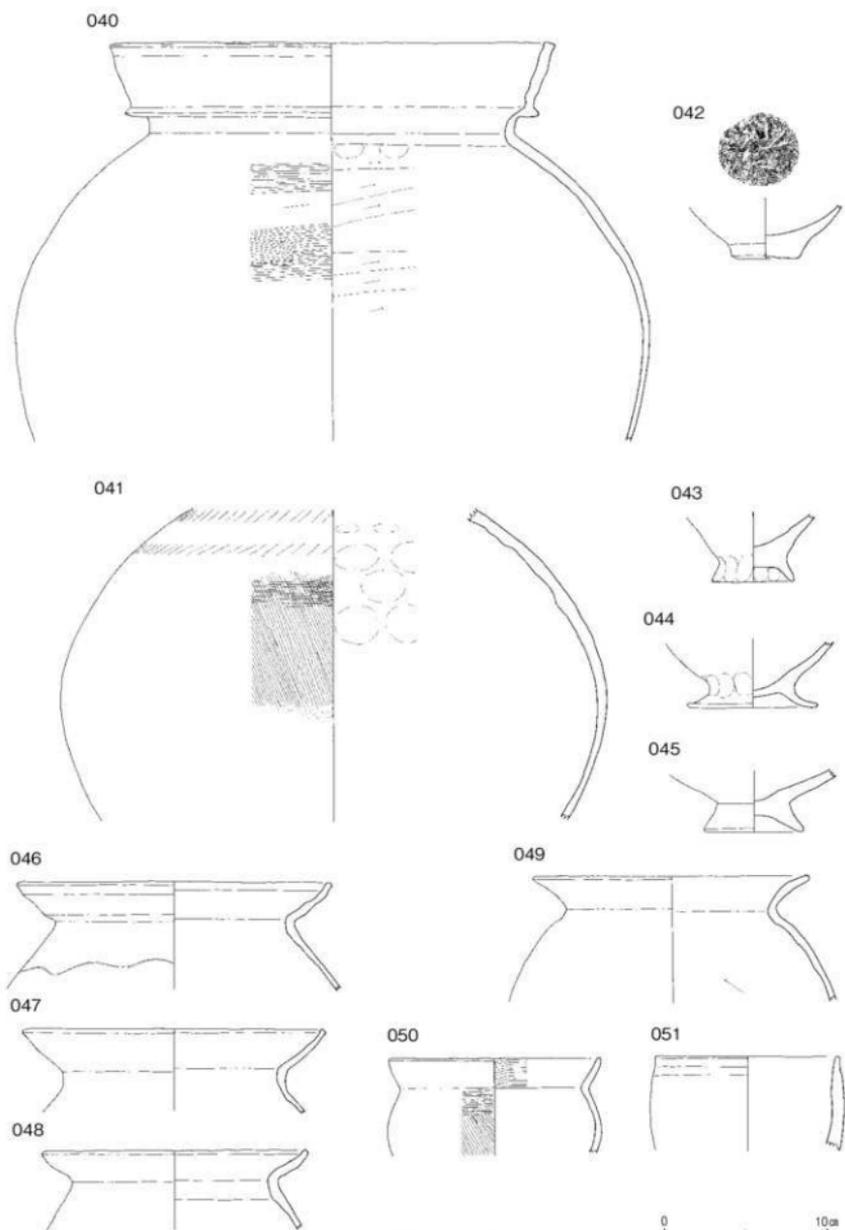


039

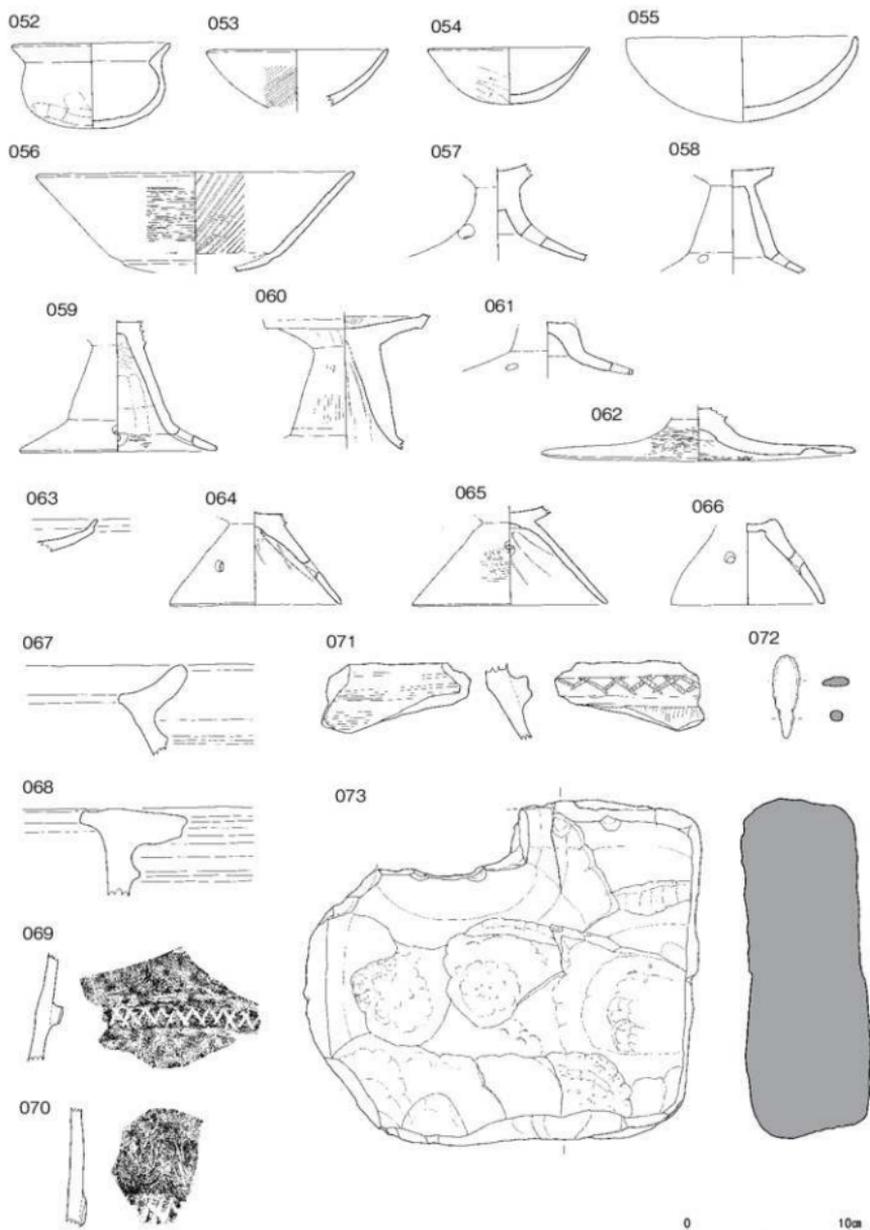


0 10cm

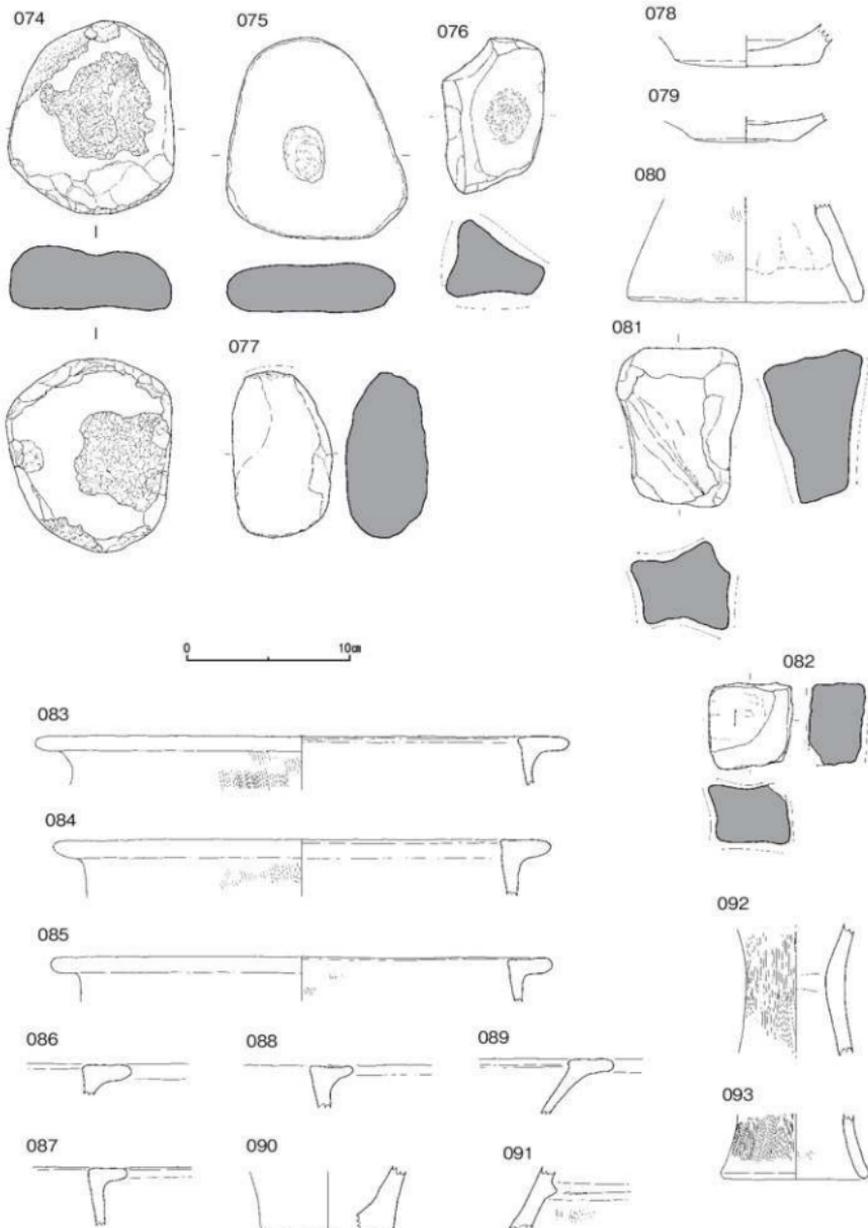
第11図 SD203出土遺物実測図1 (1/3)



第 12 图 SD203 出土遺物実測図 2 (1/3)



第 13 图 SD203 出土遺物実測図 3 (1/3)



第 14 图 SD203·SD263 出土文物实测图 (1/3)

### 3) 土坑

**SK046-A(第15図)** SC046内に位置する。竪穴式住居の床面から浮いた状態で出土した壺である(第17図094)。掘込みは確認できなかったが、住居の埋没時に流れ込んだものではなく、意図的に壺を埋めたものである。壺は35×30cmの範囲に破片がびっしりと詰まった状態で出土した。最下層は胴体中央部で本来の曲線を保っているが、中央の最もへこんだ部分の土器片がなく、埋める前に割れたため小片が消失したものと、穿孔とも考えられる。その上に胴部片を内面を上に入れて入れた後、口縁部を上下逆に入れ込んでいる。胴部片の下層と上層間には土が入り埋めながら破片を置いたと思われるが、本来上側になる破片も内面を上に行っていることから、単なる廃棄ではなく意識して埋納したものと思われる。

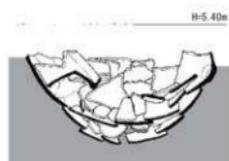
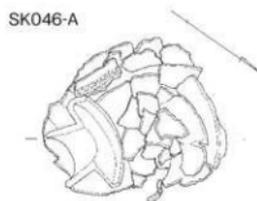
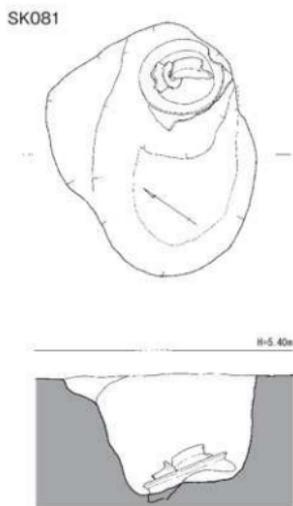
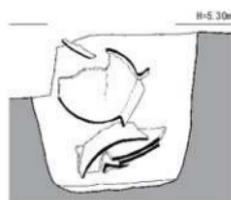
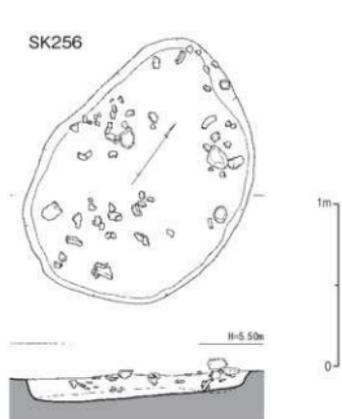
**SK081(第15図)** II区中央から西寄りに位置する。埋土は黒褐色を呈す。平面形はいびつな楕円形を呈し主軸はN-57°-Eを測る。長径52cm、短径39cm、深さ27cmを測る。底面の北半を更に5cmほど掘り下げ、径19cm程の甕口縁と小型の甕口縁を据えている。出土遺物(第20図131~134)。131~133は甕口縁である。口径は17.2cm、16.6cm、13.4cmを測る。134は台付甕の台部分と思われる。底径6cmを測る。古墳時代前期と思われる。

**SK087(第16図)** II区の中央北寄りに位置する。遺構の北側を攪乱に切られる。平面形はいびつな方形で南東隅と、南西隅が外側に張り出す。現状で南北1.5m、東西1.9m、深さ12cmを測る。埋土は黒色を呈す。遺構の南側で壺の破片が、北側で甕や壺の破片がまとまって出土した。南側の壺は袋状口縁壺である。器壁が薄く細片化していたため、復元できなかった。図や写真では判りにくいが、口縁部の内側に別個体の口縁が重なって出土しており、壺の合わせ口であったと考えられ、この様な出土状況から祭祀もしくは壺棺墓といった用途が考えられ、本来はSK087とは別遺構の可能性があるので、SK128の番号をつけて取り上げた。この壺に伴う掘方は確認できなかった。出土遺物(第17図095~097)。095・096は甕口縁、097は腕の口縁である。095は復元口径16.2cmを測る。097は黄褐色を呈す。

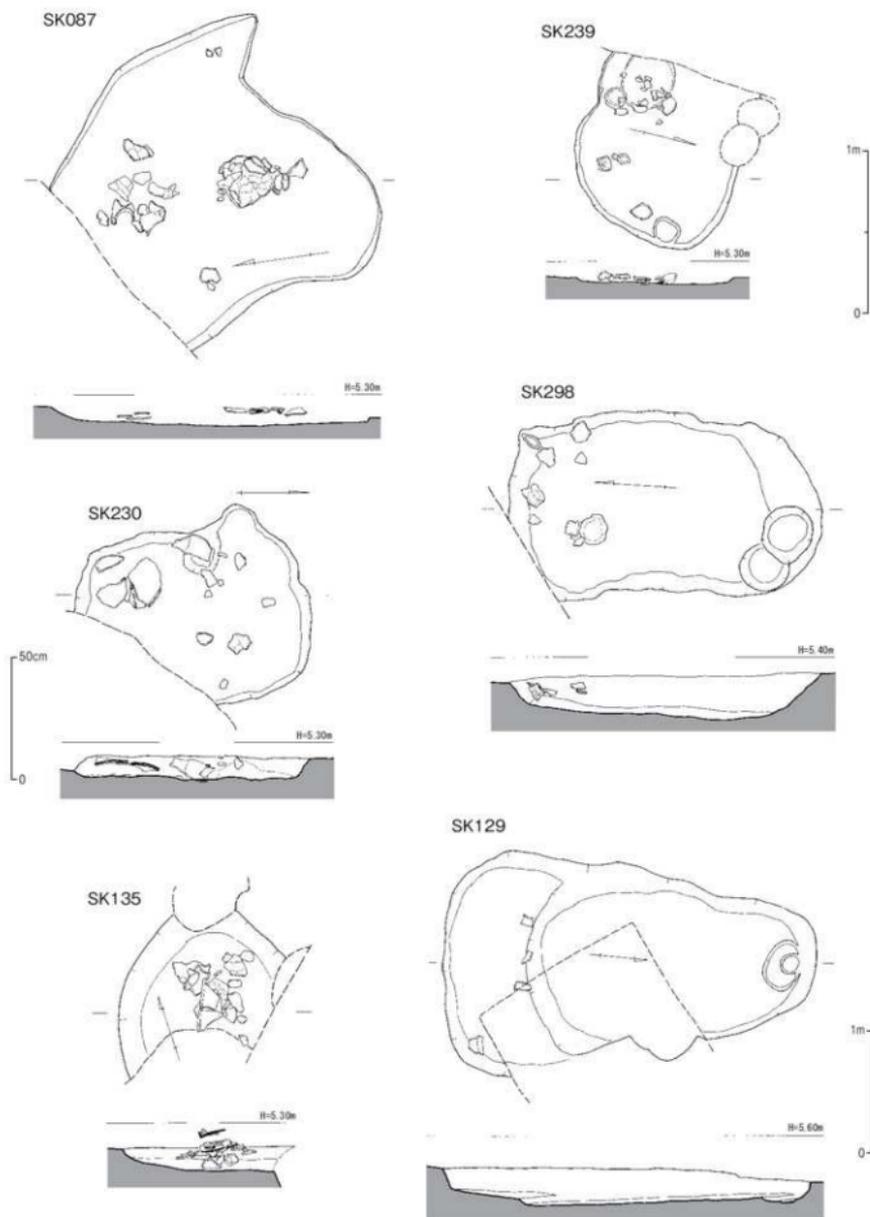
**SK129(第16図)** II区の南側に位置し、SC048を切る。平面形は二等辺三角形を呈し、主軸はN-7°-Wを測る。埋土は暗茶褐色を呈す。長径296cm、最大幅183cm、深さ28cmを測る。底面は階段状に北側に向かっており、それぞれのテラスは凹凸も少なく平坦である。遺構の性格としては竪穴式住居の掘方残欠の可能性などが考えられるが、詳細は不明である。出土遺物(第18図101~112)。101~107は甕口縁である。108は甕口縁、109は器台、110は筒型器台、111は砥石である。112は安山岩の小円礫で弥生時代の遺構から度々出土する。縁に擦痕がみられるものもある。

**SK135(第16図)** II区南端のSC022内に位置する。平面形は南半が調査区外に延びており不明である現状で南北70cm、東西68cm、深さ6cmを測る。埋土は黒褐色を呈す。遺構中央部で甕などの土器片がまとまって出土した。出土遺物(第20図135~137)。135は甕上半部で1個体分出土したが、細片化のため復元できなかった。136・137は甕底部である。いずれも弥生時代中期に属する。

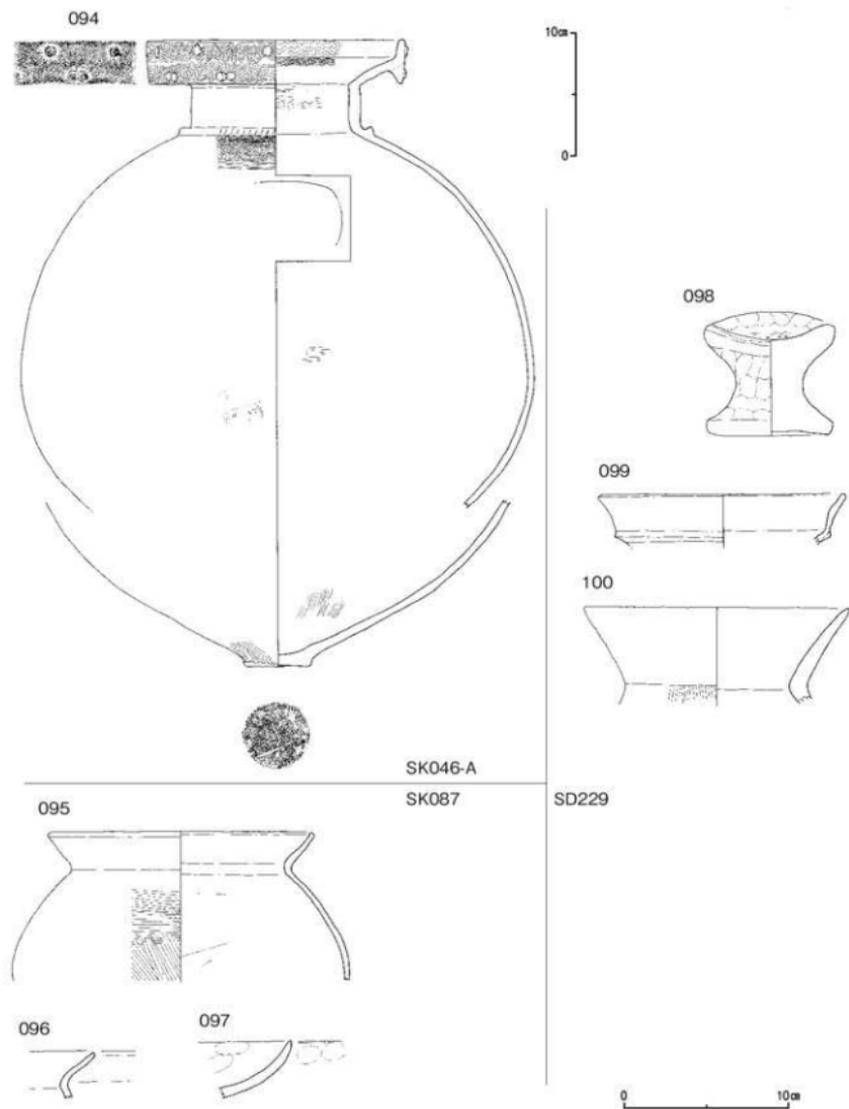
**SK137(第15図)** II区のほぼ中央部、SC047内に位置する。出土遺物からSC047が埋没後に掘られたものである。平面は円形で径33cm、深さ32cmを測る。掘方は逆台形で土色は黒褐色を呈す。検出面直下で甕の上半部が出土し、その下の底面から5cm程上で甕などの大きな破片が出土した。上の甕の一部は攪乱に削られており、本来は底部近くまで残っていたものと思われる。出土遺物(第20図138~140)。138は上層から出土した甕である。口径15.2cmを測る。139・140は下層から出土した。



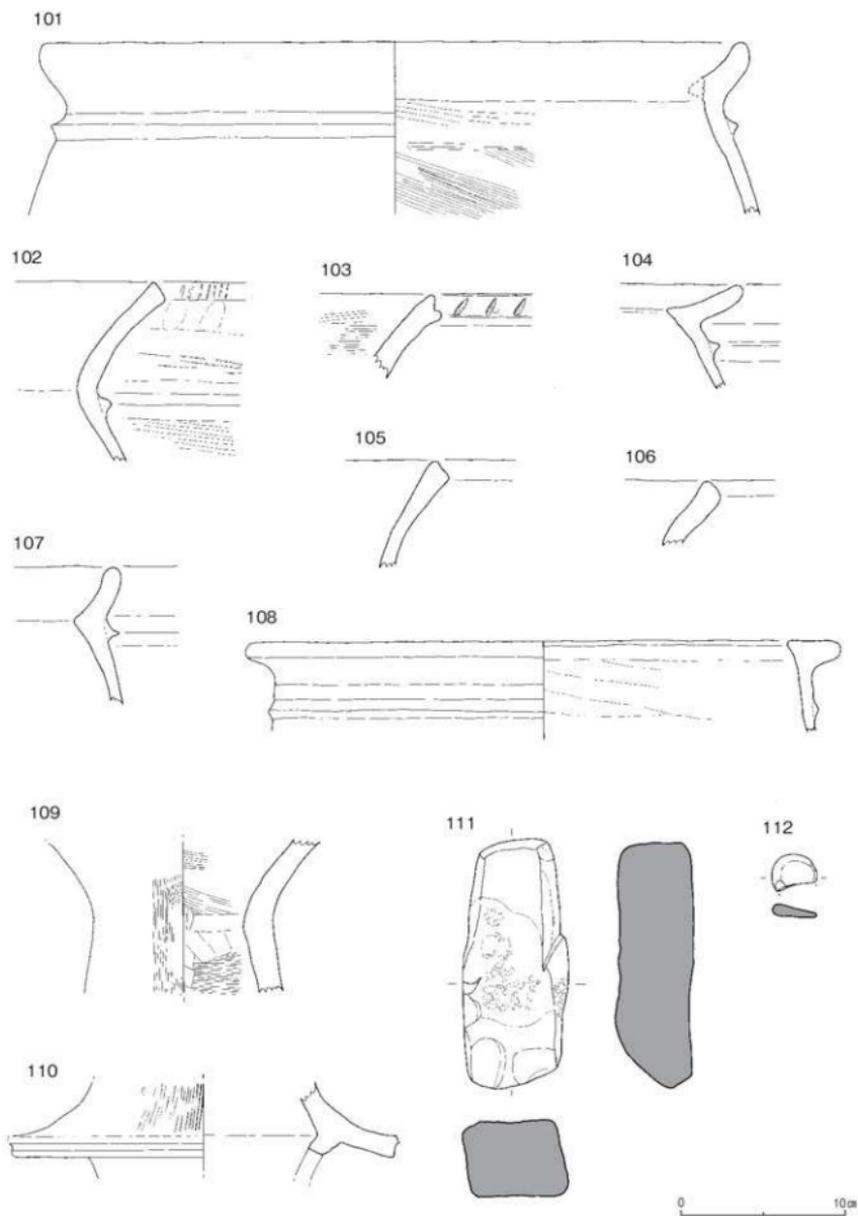
第15図 土坑実測図1 (1/10・SK256は1/30)



第16図 土坑実測図2 (1/30・SK230は1/20・SK129と135は1/40)



第17図 土坑出土遺物実測図1 (1/3・094は1/4)



第 18 图 土坑出土遗物实测图 2 (1/3)

**SK230 (第16図)** II区東側に位置しSD203に切られる。平面形は長方形と推定され、主軸はN-17°-Wを測る。埋土は暗茶褐色土で、断面は浅皿状を呈す。底面は西縁中央に径13cm、深さ4cmの凹みがある他はほぼ平坦である。遺物は弥生中期～後期の甕や壺が出土しており、後期中頃と考えられる。

**SK239 (第16図)** II区の東端部に位置し、遺構の西端をSD203に切られる。平面形は東西に長い隅丸の長方形で、現状で東西107cm、南北101cm、深さ5cmを測る。埋土は茶褐色で粗砂を多量に含む。底面は東端に径17cmで深さ1cm、西南端に径32cmで深さ3cmの凹みを持つ他は、ほぼ平坦である。出土遺物(第19図113)。113は高坏の坏部で口縁端を欠く。時期の判る遺物としては、これ以外は弥生時代中期の土器片が多く出土した。

**SK256 (第15図)** II区中央から北東寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸はほぼ南北方向に近い。長径168cm、短径124cm、深さ13cmを測る。埋土は黒褐色を呈す。掘方断面は浅皿状を呈し、底面は南側は平坦で北端部がなだらかに窪む。出土遺物(第19図114～122)。114は直口壺口縁、115は壺底部、116は壺胴部下半である。117～119は甕、120・121は甕帽の口縁である。122はハマグリ刃石斧の破片である。

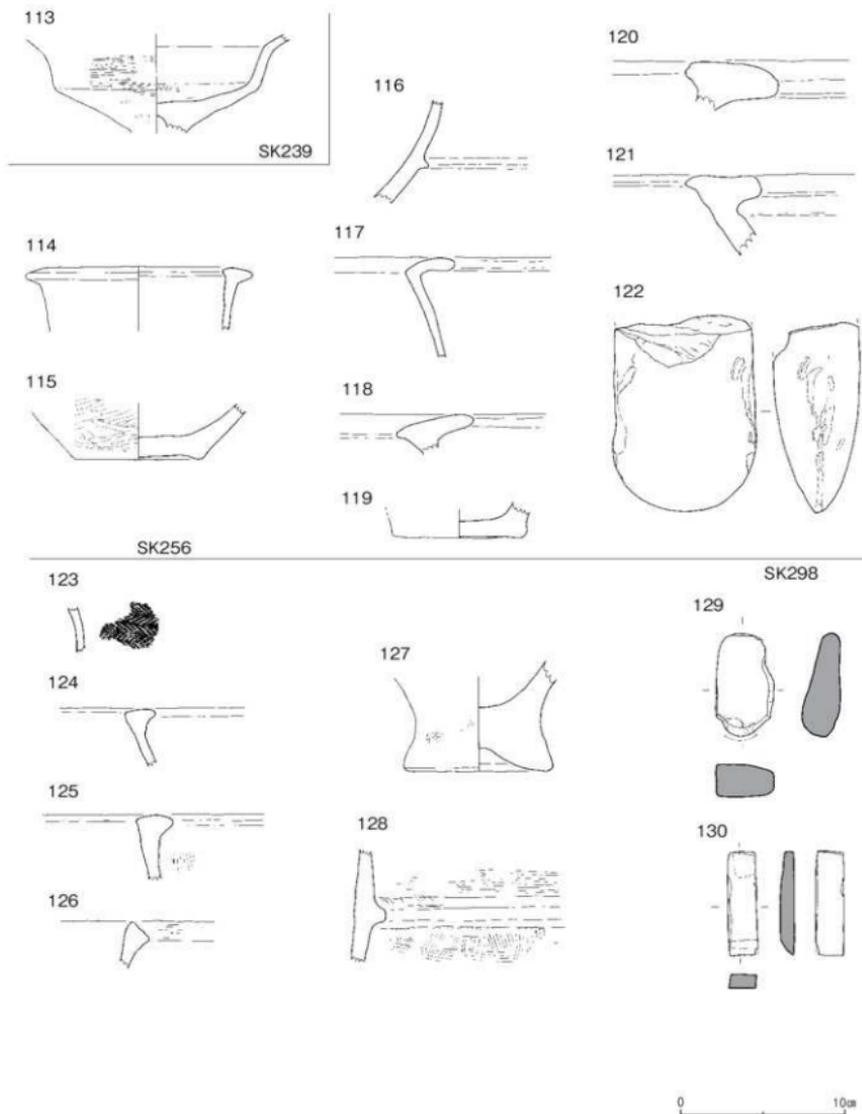
**SK288 (第4図)** SD263を切る。第20図141～144等の他、弥生時代中期の土器片が径40cmの範囲に詰まって出土した。

**SK298 (第16図)** II区中央部に位置し、遺構の北西隅を攪乱に切られる。平面形は隅丸の長方形を呈し、主軸はほぼ南北方向を向く。埋土は黒褐色を呈し長径189cm、短径109cm、深さ26cmを測る。掘方断面は浅皿状で底面は多少の凹凸があり、南側に緩やかに傾斜する。北東部分で土器片がまとまって出土した。出土遺物(第19図123～130)。123は壺肩部で綾杉文を線刻する。124・125は甕、126は壺の口縁である。127は甕底部、128は甕帽胴部である。129は砥石で上下両端に叩打痕がみられるが、側面は研磨してあり、砥石からの転用か。130は柱状片刃石斧である。

#### 4) 包含層

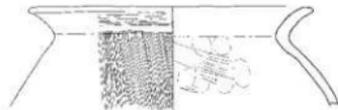
II区の表土剥ぎで砂利等の現代盛土を取り除いたところ、調査区の東側が細かな土器片を多く含む暗茶褐色土に覆われていた。この暗茶褐色土は遺構の埋土である可能性もあるが、弥生時代中期中頃～古墳時代の遺構の土色は黒褐色に近く、埋没の段階で細かなロームブロックを含むものが多いが、今回の暗茶褐色土はそれとは異なるように思われた。出土遺物(第20図147～171)。147は須恵器杯蓋、148は須恵器大甕頭部で残りは素焼きである。149～152は壺、153は大型の鉢か。154～159は高坏もしくは台付の甕、164は支脚である。この様に多くが古墳時代前期に属するが弥生時代中期の遺物もあり、162・163は中期の壺、165は甕型土器で、166・167は高坏である。169の甕と171の甕帽口縁は弥生時代中期中半に属する。168は土製の投弾である。長さ4.7cm、径2.5cmを測る。

5) その他の遺物(第20図145・146、第22図172～184)。145はSK006出土の壺頭部で外面に刺突による沈線7条を施す。瀬戸内系の可能性がある。146は038出土の壺、172～174はII区包含層から出土した石製品である。172は厚みがあり石鎌の破損品か。刃部はつぶれている。173は石包丁の破損品、174は砥石で3面を砥面としている。175～178はSK001(攪乱)から出土した。175・176は龍泉窯系青磁碗、177は陶器壺、178は石製硯である。いずれも中世に属する。179・180はSP013から出土した砥石、181はSP164から出土した飯蛸壺、182はSP283から出土した砂岩製砥石、183は002(Ⅰ区攪乱)出土の台付甕の台部、184は250(Ⅱ区攪乱)出土の

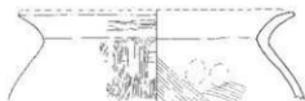


第 19 图 土坑出土遺物実測図 3 (1/3)

131



133



134



132



SK081

SK137

135



136



137



SK135

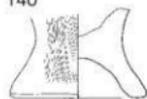
138



139



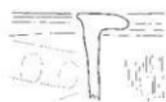
140



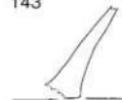
141



142



143



144



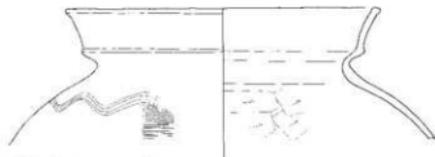
SK288

0 10cm

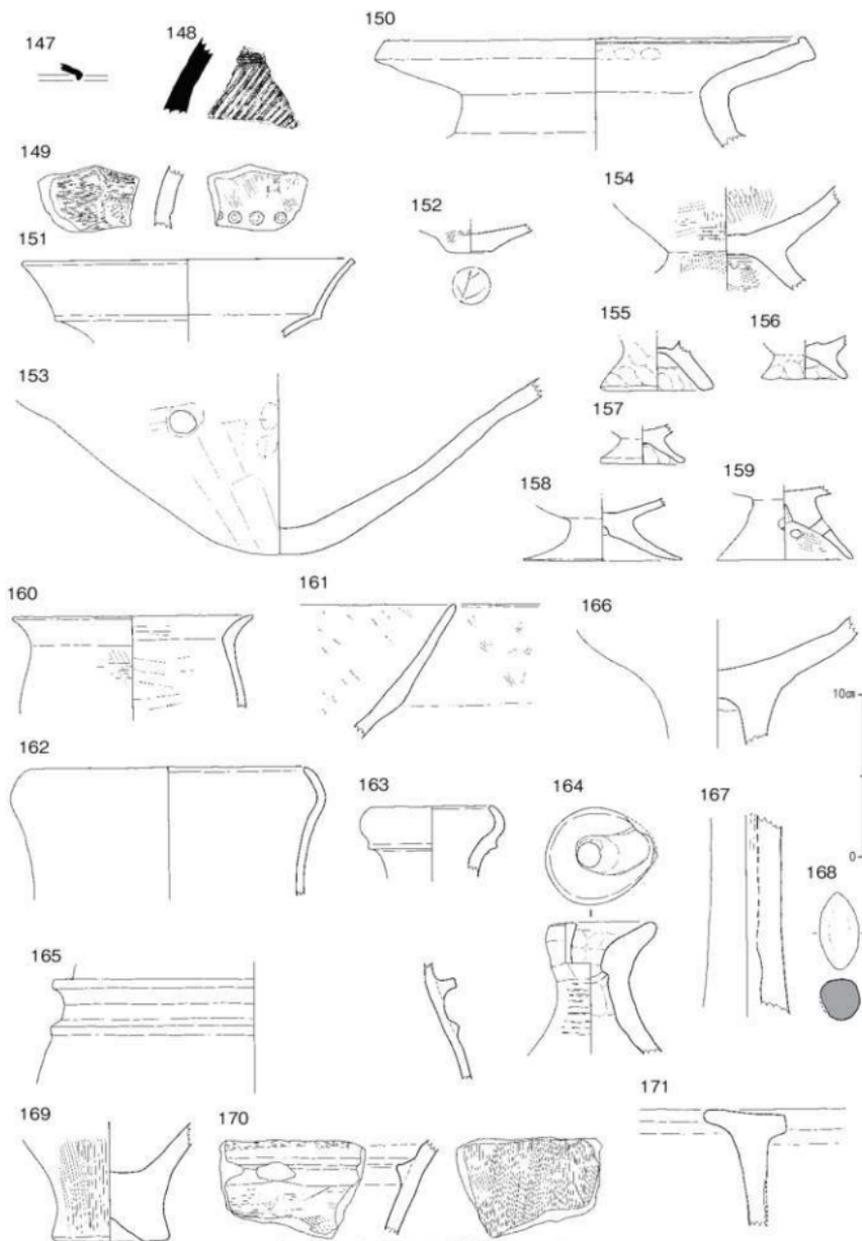
145



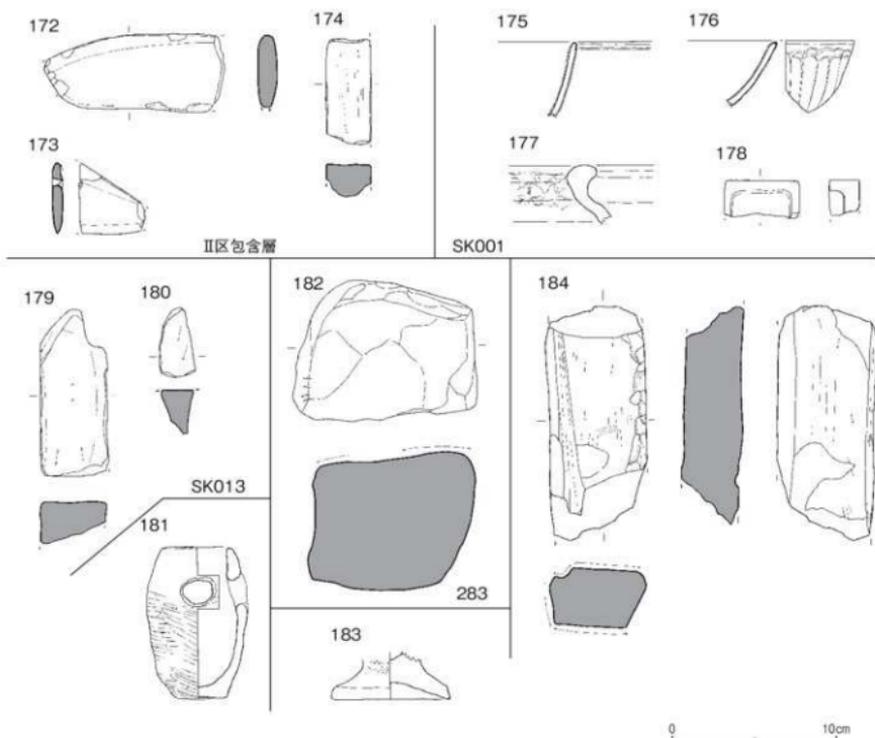
146



第 20 图 土坑出土遺物実測図 4 (1/3)



第 21 图 包含層出土遺物実測図 (1/3)



第22図 その他出土遺物 (1/3)

砥石である。181の飯箱壺は口径3.9cm、器高9.2cmを測り、外面刷部にタタキ痕が残る。

### 3. 小結

I区とII区の北側は大きく攪乱されていた。これは59次調査の時点ですでに確認されている。II区では攪乱部分を除いて全面に密に遺構が分布している。検出した遺構は竪穴式住居4軒、溝状遺構3条、土坑と柱穴状遺構が多数である。竪穴式住居は調査区の側に集中しているが、調査区西側にも浅い溝状遺構が分布しているのは、竪穴式住居の壁溝である可能性があり、本来はもっと多くの住居があった可能性がある。遺構は全体的に浅く遺存状態が悪い。茶褐色包含層の上から掘り込んでいた可能性もあるが、古墳時代前期に2条の溝状遺構（当調査区のSD203と59次のSD02）を掘削した段階である程度の整地が行われた可能性が考えられる。



表 2

遺物番号	区	地物	番号	形状	寸法(m)	深さ(m)	時代	遺物	備考
059	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	42	16	弥生時代中期?	高坏(弥生中期)、土器片(3点)	
060	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	48	18	弥生時代	甕(弥生中期 横紋御椀形)、土器小片(多)	
061	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	36×4	6	不明	土器片(3点)	
062	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	58	8	弥生時代後期	甕(弥生中期 2点)、甕(弥生中期 1点)、土器小片(多)	
063	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	44	1	不明	土器小片(1点)	
064	Ⅱ区	土坑?	SK	方形?	41+α	11	弥生時代中期	甕(弥生中期 横片化)	
065	Ⅱ区	溝(水通遺構?)					弥生時代?	土器片(2点)	
066	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	37	3	弥生時代中期?	甕(弥生中期 2点)、土器片(1点)	
067	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	33	51	不明	土器片(3点)	
068	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	36	16	不明	土器小片(2点)	
069	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	26	79	不明	土器小片(2点)	
070	Ⅱ区	土坑	SK	長方形?	70+α	19	弥生時代?	甕(弥生時代 小片(3点))	
071	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	52+α	29	不明	土器小片(2点)	
072	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	46+α	8			103に切られる
073	Ⅱ区	土坑	SK	方形	81	84	弥生時代中期~古墳時代	甕(弥生中期 3点 別個体)、小甕?(弥生中期 1点)、土器小片(12点 1点古墳時代の可能性あり)	SC042を切る
074	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	84	9	弥生時代中期?	甕(弥生中期)、取手?(弥生中期 丹塗)、土器小片(多)	
075	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	30	15	不明	土器小片(3点)	
076	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	27	20	不明	土器片(1点)	
077	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	18	3	弥生時代?	甕(弥生中期 小片1点)、土器片(小片4点)	
078	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	30	7	不明	土器片(小片 4点)	
079	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	37	10	弥生~古墳時代	高坏(弥生時代?)、甕(弥生後期末~古墳時代)、土器小片(弥生 多)	
080	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	62	27	弥生~古墳時代	甕(弥生中~後期)、甕(弥生中期、弥生後期)、土器小片(多)	
081	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	52×39	27	古墳時代前期	高坏(古墳前期2点)、高坏(古墳?)、甕(弥生後期)、土器小片(多)	
082	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	38	8	弥生時代中~後期	甕(弥生中期 1点+弥生後期 1点)、土器片(小片 9点)	
083	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	方形	42	55	弥生時代?	甕(弥生中期 1点)、土器片(小片 14点)	
084	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	24	26	弥生時代?	土器片(20点)	
085	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	29	9	不明	土器小片(3点)	SC047に切られる
086	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	48+α	7	弥生時代中期前半	甕底(1点)	
087	Ⅱ区	土坑	SK	不整形	150×180	12	古墳時代前期	甕(古墳前期、弥生中期前~中期中)、甕(弥生後期、古墳前期 2点)、高坏、甕(壺台?)(丹塗)、土器小片(多 弥生中期前~中が多)	
087-A	Ⅱ区	土坑	SK	不整形	150×180	12	古墳時代前期	広口瓦甕(弥生時代中期)	
087-B	Ⅱ区	土坑	SK	不整形	150×180	12	古墳時代前期	高坏(古墳前期)一片化、白磁石、土器小片	
087-C	Ⅱ区	土坑	SK	不整形	150×180	12	古墳時代前期	甕(古墳時代前期 横紋分 横片化)	
087-D	Ⅱ区	土坑	SK	不整形	150×180	12	古墳時代前期	甕(古墳前期、弥生)、土器小片	
088	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	約50		不明	土器片(小片 10点)	
089	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	57	10	弥生時代中~後期	甕(弥生中期)、甕、甕(弥生後期末?)、土器片(小片)	
090	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	46	10	弥生時代後期?	甕(弥生後期中)、土器小片(多)	
091	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	41	7	弥生時代後期	甕(弥生後期)、甕(弥生時代)土器片(小片 多)	
092	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	37	42	不明	高坏石片(1点)、高坏部?(1点)、土器片(小片 8点)	
093	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	18	1	不明	高坏(1点)、土器片(小片10点)、高坏石片(1点)	
094	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	49	21	弥生~古墳時代	甕?(弥生?)、土器小片(多 弥生~古墳)、破片	
095	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	35	3	不明	土器片(小片の片)	
096	Ⅱ区	不明	SK	不整形	約80×53	2	弥生時代中期	甕(弥生時代中期 多)、土器小片(多 弥生中期)	甕穴生痕欠か
097	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	30	1	弥生~古墳時代	土器片(弥生~古墳 小片)、高坏石片(1点)	
098	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	19	38	不明	土器片(小片 7点)	
099	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	30	24	弥生時代中期	甕(弥生中期)、甕(弥生中期)、土器片(小片 8点)	
100	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	20+α	6	不明	高坏(弥生時代中期)、土器片(多 一部弥生時代)	
101	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	21	5	弥生時代中~後期	甕(弥生中~後期)、土器片(小片)	
102	Ⅱ区	溝			160	15	古墳時代後期?	埴輪(弥生後期 1点)、甕(古墳)、甕(弥生中前~中中、弥生後期)、甕(弥生中期)、甕(弥生後期)、土器小片(多 弥生中後多)	
103	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	53	48	弥生時代?	甕(弥生時代)、土器片(小片 多)	
104	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	30	16	弥生時代中期	横紋御椀(丹塗 黒入が)、土器小片(多 弥生前期後~中期が多い)	横石有り
105	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	45	15	不明	土器片(1点)	
106	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	47	35	弥生時代中期?	甕(弥生前中 1点)、甕口縁(多 一部弥生中期)、土器小片(多)	
107	Ⅱ区	不明	SK	長方形	約 70		古墳時代前期	高坏(古墳前期)、甕(古墳前期?)、小甕(丹塗甕(古墳前期)、甕(弥生中期、弥生後期中、弥生後期末)、甕(弥生後期)、土器片(小片 多)	甕穴生痕欠か
108	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	36	22	不明	土器片(7点)	
109	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	40	4	弥生時代?	土器片(2点 弥生時代?)	
110	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形			古墳時代前期	甕(古墳時代前期 破片4点 黒銅に染文)	SC047用
111	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	36	14	弥生時代中期	甕口縁(弥生中期 1点)、甕(弥生中期 1点)、土器片(小片 8点)	
112	Ⅱ区	柱穴遺構	SP						
113	Ⅱ区	柱穴遺構	SP		59次で調査済み		弥生時代?	甕(弥生時代中期 1点)、土器片 遺物は出土のものでも	
114	Ⅱ区	柱穴遺構	SP				不明	土器片(小片 10点)	
115	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	43	9	弥生時代~古墳時代	高坏(弥生時代?) 2点)、甕(弥生中期)、土器片(小片 多)	
116	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	21	16	不明	土器小片(3点)	
117	Ⅱ区	溝状遺構	SO	長 約70	幅 20	3	弥生時代中期?	甕(弥生中期前 1点)、土器小片(3点)、高坏石(1点)	
118	Ⅱ区	溝状遺構	SO	長 43	幅 11	4	弥生時代?	土器片(2点 弥生?)	
119	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	60	26	古墳時代前期	小形丸蓋(古墳時代前期)、甕?(弥生中期 丹塗)、土器小片(多)	
120	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	24	41	古墳時代	甕(古墳?)、弥生中期、甕(弥生後期中)、土器小片(多)、高坏石(1点)	
121	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	長方形	39	22	弥生時代	土器片(1点)	SC042付か
122	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	22	19	不明	土器片(1点)	SC042付か
123	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	49	44			SC042付か
124	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	30	9	不明	土器片(2点)	
125	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	17	8	不明	土器小片(4点)	
126	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	24	8	古墳時代	高坏(古墳時代?) 甕(のみ)、土器片(1点)	
127	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内形	58	36	古墳時代	甕?(古墳時代 甕(のみ)、土器小片(多 弥生~古墳時代)、高坏石(2点)	
128	Ⅱ区	壺埴輪土坑	SK	不明	約90				SK067用
128-A	Ⅱ区	壺埴輪土坑	SK	不明	約90		古墳時代	甕(古墳時代)	SK067用
128-B	Ⅱ区	壺埴輪土坑	SK	不明	約90		古墳時代	甕(古墳時代 1個体分? 横片化)	SK067用

表 3

遺跡番号	区	性格	番号	形状	存(m)	深さ(m)	時代	遺物	備考
129	Ⅱ区	土坑	SK	三角	296×183	28	弥生時代後期後半	銅鈴(弥生後期 8点)、銅鐙(弥生中前期)、弥生中前期前中、多、(弥生中～後期)、高杯(弥生中前期)、土器小片(多)、黒曜石(1点は製糸の破片か)	表層以外は中層壁穴住居の痕欠?
130	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	32	9	弥生時代中期	敷底部(弥生中期)、土器片(8点)、土器片(1点)	
131	Ⅲ区						不明	土器片(1点)	
132	Ⅲ区	不明	SX	不整形	約250×130	4	不明	土器片(7点)、土器片(1点)	壁穴生器残欠か
133	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	32	32	弥生時代中期中	蓋口(弥生中前期)、蓋(弥生中前期)、土器小片(多)	SC042に切り欠
134	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円?	86	31	弥生時代中期	敷(弥生中期)、敷(弥生中期)、土器小片(多)	SC022穴
135	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	70×68	6	弥生時代中期	敷(弥生中期) 1層体一般片化、口縁石、埋合不可、敷底部(2点)	SC027穴
136	Ⅲ区								
137	Ⅲ区	土坑	SK	円形	33	32	弥生時代末～古墳時代前期	敷(弥生時代末～古墳時代前期)、合符(1点のみ)、土器小片(多)	SC047穴
137-B層	Ⅲ区	土坑	SK	円形	33	32	弥生時代末～古墳時代前期	敷底部(弥生中期)、土器小片(多)、黒曜石(1点)	
137-A	Ⅲ区	土坑	SK	円形	33	32	弥生時代末～古墳時代前期	敷(弥生中期)、土器片	
137-B	Ⅲ区	土坑	SK	円形	34	32	弥生時代後期	敷(弥生時代後期)	
138	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	24	9	弥生時代	土器片(弥生時代 8点)	
139	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	36	35	弥生時代	土器片(2点)	
140	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	長方形	48	30	弥生時代後期	敷(弥生後期)、敷(弥生中前期)、土器小片(5点)	SC022柱穴
141	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	61	50	不明	土器片(8点)	SC022柱穴
142	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円			不明	土器小片(2点)	SP084に切り欠
143	Ⅲ区	小塚	SK	不整形	18	1	不明	土器小片(1点)	
144	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	11	5	不明	土器片(1点)	
145	Ⅲ区	土坑	SK	円形?	35前後		不明	土器小片(2点)	SC047穴
146	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	31	8	弥生時代中期	敷(弥生中期)、土器片(多)	SC042穴
147	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	24	19	弥生時代後期中	敷(弥生中期)、敷(弥生中期)、蓋(弥生後期)、土器小片(多)	SC042穴
148	Ⅲ区	不明	不整形	約110×80			不明	敷(弥生中期)、敷(弥生中期)、土器小片(多)	壁穴式住居残欠か
149	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	33	22	不明		
150	Ⅲ区	土坑	SK	楕円	84	14	不明		
151	Ⅲ区	不明	SX	不明	300×160		弥生時代		
152	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	27	33	弥生時代中～後期	高杯(弥生中期)、蓋(弥生中前期～中)、土器片(弥生中～後期)	壁穴式住居残欠か
153	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	不明	35	5	不明	土器片(小片 2点)	
154	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	26	4	不明	土器片(5点)	
155	Ⅲ区	土坑	SK	不整形	約50	7	弥生時代	敷底部(弥生中前期)、土器片(小片 多)	
156	Ⅲ区	溝状遺構	SO	長 87 幅 37	10		弥生時代	敷底部(弥生中期)、土器片(小片 多)	
157	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	51	8	不明	土器片(小片 9点)	
158	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	42	11	不明	土器片(小片8点)	
159	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	28	5	弥生～古墳時代	土器片(小片 3点)、黒曜石片(1点)	
160	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	13	1	不明	土器片(1点)	
161	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	13	1	不明	土器片(1点)	
162	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	36	34	弥生時代中期?	土器片(弥生中期 小片 多)	
163	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	23	43	不明	土器片(小片 多)	
164	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	33	13	弥生時代後期	敷(弥生後期)、銅蓋、土器片(小片 多)、敷(弥生後期)、敷石	
165	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	27	2	不明	土器片(小片 4点)	
166	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	36	10	不明	土器片(小片 3点)、黒曜石片(1点)	
167	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	40×39	5	不明	土器片(2点)	
168	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	不整形	47	2	不明	土器片(1点)、石片(1点 安山石)	
169	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	17	3	不明	土器片(1点)	
170	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	不整形	18	7	不明	土器片(1点)	
171	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	33	4	弥生後期～古墳時代	土器片(弥生中～古墳時代 小片 多)	
172	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	28×39		不明	土器片(小片4点)	
173	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円形	31	45	弥生時代?	高杯? (弥生時代?)、土器片(小片 3点)、黒曜石片	
174	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	方形	38	11	弥生～古墳時代	土器片(8点)	
175	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	10	2	弥生時代?	土器片(小片 9点)	SC042穴
176	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	8	1	不明	土器片(小片 6点)	SC042穴
177	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円	7	1	弥生時代	土器片(2点)	SC042穴
178	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	43	29	不明	土器片(小片 12点)	
179	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	47	47	弥生時代?	敷(弥生時代)、土器片(小片 多)	
180	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	24	25	不明	土器片(5点)	
181	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	13	2	弥生時代	土器片(弥生時代 3点)	
182	Ⅲ区	土坑	SK	楕円	98×38	8	弥生時代中期	敷底部(弥生中期 1点)、土器片(4点)	SC048に切り欠
183	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	28	9	弥生時代中～後期	敷(弥生中～後期)、敷底部(弥生中～後期)、土器片(8点)	SC048床面遺方
184	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	17	4	不明	土器片(小片 2点)	SC048床面遺方
185	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	14	4	不明		SC048床面遺方
186	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	12	5	不明		SC081床面遺方
187	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	15	4	不明		SC082床面遺方
188	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	13	10	不明	土器片(小片 3点)、黒曜石片(1点)	SC083床面遺方
189	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	36	4	弥生後期～古墳時代	敷(弥生後期～古墳時代)、敷(弥生時代)、土器小片	
190	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	13	8	不明	土器片(1点)	
191	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	41	3	弥生時代～古墳時代前期	土器片(4点)	
192	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	10	5	不明	土器小片 4点	
193	Ⅲ区	SC047埋没小穴	SP	楕円	17	10	不明	土器小片 1点	
194	Ⅲ区	溝	方	方形	3210	35	現代		
195	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	49	10	弥生時代	蓋(1点 弥生時代)、土器小片(13点)	
196	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円形	26	33	弥生時代中～後期	蓋(2点 弥生時代中～後期)、土器小片(12点)	
197	Ⅲ区	土坑	SK	不整形	48×39	28	不明	土器小片(3点)	
198	Ⅲ区	SC042埋没遺方	SK	不整形	約100×60	8	弥生時代中期		SC042埋没
199	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	円	21	20	不明	土器小片(多)	
200	Ⅲ区	柱穴穴遺構	SP	楕円	23	35	弥生時代中期	蓋口(弥生中前期～中葉)、土器小片(多 弥生時代)	SC042穴



表 5

遺跡番号	区	形状	跡号	形状	径(m)	深さ(m)	時代	遺物	備考
263	Ⅱ区	溝状遺構	SD	長 約500	幅60~130	86	弥生時代中～後期	釜(弥生中期 多)、高环(弥生中期 3点)、釜台(弥生中期 2点)、釜(弥生中～後期)、黒曜石片(2点)、土器片(多)	
264	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	88	18	弥生時代後期	磨石(弥生後期、弥生中期)、甕(弥生中期 多)、甕(弥生中期後半)、土器片(小片 多)	
265	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝?	30	8	不明	土器片(2点)	SD207穴
266	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝?	20+α	19	不明	土器片(小片 多)	SD207穴
267	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	17	9	不明	土器片(1点)	
268	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	13	6	不明		
269	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	7	2	弥生時代中期	甕(弥生時代中期 1点)、土器片(小片 8点)	
270	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	8	3	不明	土器片(2点)	
271	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	31	3	弥生時代中期中頃	甕(弥生時代中期中頃～前期前半) 下半部の大平あが(焼片化)	
272	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	14	4	不明	土器片(小片 6点)	
273	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	33	7	弥生時代中期	磨石(弥生中期)、甕(弥生中期中頃)、土器片(小片 多)。	
274	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	長方形	36	31	弥生時代	甕(弥生時代)、土器小片	
275	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	36	43	弥生後期～古墳時代?	釜(弥生後期?)、高环(弥生後期後半)、甕(弥生中期 多)、土器片	
276	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	36	53	弥生中期前半?	釜(弥生中期前半)、土器片(小片 多)	
277	Ⅱ区	土坑	SK	不整形	約70	5	弥生時代	磨石?、埴土?、土器小片(弥生時代)	
278	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	17	2	弥生時代中期前半	甕(弥生時代中期前半 1点)	
279	Ⅱ区	小溝	SD	長 約 20	幅13	3	弥生時代	土器小片(弥生時代 7点)	観六生層遺構か
280	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	41	3	弥生中期?	甕(弥生中期)、土器片(1点)	SD207穴
281	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	42	3	弥生中期前半～中期	甕口縁(1点 弥生中～期)、甕底面(1点 弥生中期前半)、土器小片(多 弥生時代)	SD207穴
282	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	23	7	弥生時代?	甕底面(1点 弥生中期前半)、土器片(弥生 弥生時代)、	SD207穴
283	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	43	11	弥生時代後期～古墳時代初期	磨石(弥生後期～古墳時代)、甕(弥生中～期)、甕(弥生中～期)、土器片(小片8点 弥生時代)、石瓦(安土古 1点)	SD207穴
284	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	38	4	弥生時代中期	甕口縁(1点 弥生中期)、土器片(2点)	SD207穴
285	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	33	3	弥生時代中～後期	土器片(10点 弥生中～後期)	SD207穴
286	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	24	2	古墳時代	大型甕(1点 古墳時代)、甕口縁(1点 弥生中期)、土器片(小片 多)	SD207穴
297	Ⅱ区	50cmで調査済み 遺物出土無し					不明	須磨野墓(1点)、弥生(弥生中期)、土器片(多) 遺物は奥土佐のものである	
288	Ⅱ区	土坑	BK	円	40		弥生時代中期	釜(弥生前期後半、弥生中期 多)、甕(弥生中期)、埴土(埴石?)、土器片(小片が主) 土器片(多)	中層の土器片が主と まわって出土した
289	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	26	2	弥生時代中期中頃	甕(弥生中期中頃 1点)。	
290	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	31	15	不明	土器片(1点)	
291	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	29		弥生時代中期?	甕(弥生時代中期)、土器片(3点)	
292	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	44	3	弥生時代中期後半?	磨石(弥生中期後半)、土器片(小片 多)	
293	Ⅱ区	土坑	SK	溝内	50+α	8	弥生時代中期前半?	甕(弥生中期前半)、土器片(小片 4点)	
294	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	7+α	2	不明	土器片(1点)	
295	Ⅱ区	50cm	SP	円形	11	2	不明	土器片(2点)	
296	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	不整形	87	26	弥生時代	甕(弥生時代)、磨石(埴田)、直口甕	
297	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	36	23	弥生時代中期?	甕(弥生中期 複数)、土器片(小片 多) 丹塗り土器片等を含む	298に切られる
298	Ⅱ区	土坑	SK	長方形	188×108	26	弥生時代中期	甕口縁(弥生前期末～中期前半 多)、甕底(弥生前期)、甕(弥生前期末、弥生後期)、釜台(弥生)	299に切られる
299	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	36	19	弥生時代	土器片(小片 8点)	
300	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	27	12	弥生時代	甕(弥生中期) 土器片(小片 3点)	
301	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝状	46	13	不明	土器片(小片 2点)	
302	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	23	5	不明	土器片(小片 5点)、黒曜石片(1点)	SD242穴
303	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	44	47	弥生時代中～後期	甕(弥生中期 複数)、甕(弥生前～後期)、土器片(小片 多)	SD207穴
304	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	三角	39	7	不明	土器片(3点)	
305	Ⅱ区	溝状遺構	SD	長 122	幅53	7	弥生時代中期?	甕? (弥生中期?)	
306	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	21	2	不明	土器片(1点)	
307	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	24	20	弥生時代中期	甕(弥生時代中期中頃 1点)	
308	Ⅱ区	不明	不整形	40+α	6	不明	土器片(小片 10点)		
309	Ⅱ区	土坑	SK				弥生時代後期	甕(弥生中期、弥生後期)、土器片(小片 多)	SK1290一節
310	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	28+α	4	弥生時代?	土器片(小片 2点)	
311	Ⅱ区	不明	SK	不明	33×27	3	弥生時代?	土器片(小片 多)	3方を切られる
312	Ⅱ区	SD44壁内土坑	SK	長方形	42	4	不明	土器片(小片 1点)	
313	Ⅱ区	土坑	SK	長方形	78	26	不明	土器片(小片 多)	
314	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	31	2	弥生時代	甕底面(弥生前期後半)、土器片(小片 12点)	
315	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	21	8	不明	土器片(小片 7点)	SD242穴
316	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	22	2	不明	土器片(1点)	SD242穴
317	Ⅱ区	竪穴住居遺構	不整形	40×33	2	不明	土器片(5点)	SD242穴	
318	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	34	13	不明	土器片(1点)	SD207穴
319	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	16	6	不明	土器片(小片13点)	SD207穴
320	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	17	12	不明	土器片(小片 13点)	SD207穴
321	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	18	12	弥生時代後期～古墳時代	磨石(弥生後期)、甕(弥生中期)、直口甕(弥生中期 丹塗り)、高环(弥生後期末～古墳時代)、土器片(小片 多)	
322	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	溝内	29	17	不明		
323	Ⅱ区	柱穴遺構	SP	円形	28	不明	不明	土器片(小片 7点)	
324	Ⅱ区	溝状遺構	SD	長 104	幅 34	8	弥生時代中期	甕(弥生前期後半、弥生中期中頃)、甕底面(弥生前期後半)、土器片(2点) 瓦(国産)、炭石(砂岩)、磨石(弥生中～期 多)、高环(弥生中～後)、古墳前期)、甕(弥生後期、古墳前期)、小型丸底甕、直口口縁甕、二重口縁甕、釜台(彌生前中期、弥生後期～古墳)、磨石(弥生後期)、須磨野大甕、須磨野埴土(?)	ハルクース 7層
Ⅱ区居住層								甕(弥生中期中頃、古墳前期)、釜台(弥生)、高环(弥生前中期、古墳)、磨石(弥生後期 多)、小型丸底甕、二重口縁甕、炭石(砂岩)、黒曜石(1点) 高环(弥生)、古墳前期)、釜台(弥生)、甕(弥生中期)、直口口縁甕、磨石、小型丸底甕、甕(弥生前中～後期)	ハルクース 6層
Ⅱ区黒色土								甕(弥生前中期 多)、甕(弥生中期)、磨石(弥生後期)、土器小片(多)、黒曜石(2点)	
Ⅱ区黄褐色土								甕底面(弥生中期中)、甕(弥生前中頃)、高环(弥生前中)、土器小片(多)	
902層土(黄褐色)住居層								甕(弥生前中)、高环(古墳、弥生前中)、甕(弥生後期)、甕(弥生前後期)、土器小片(多)、黒曜石(2点)	



1. I区全景(北東から)



2. II区全景(北東から)



1. II区全景(北西から)



2. 竪穴式住居切り合い状況(南西から)



1. SC022(北西から)



2. SP132・133・134(北西から)



3. SP053(南から)



4. SP053(東から)



5. SC042(南東から)



6. SC042(南西から)



7. SK198(SC042屋内土坑 西から)



8. 198土層(南から)



1. SC047(南東から)



2. SC048(北から)



3. SK036(東から)



4. SK046-A(東から)



5. SK046-A下層



6. SK081(南東から)



7. SK087(北西から)



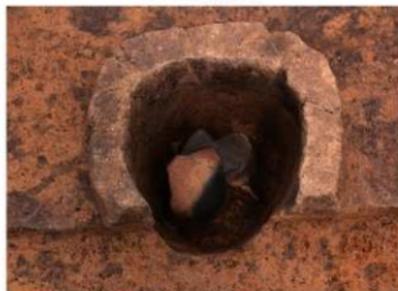
8. SK128出土遺物



1. SK129(東から)



2. SK137上層(東から)



3. SK137下層(南東から)



4. SK087遺物出土状況(南東から)



5. SK230(西から)



6. SK239(北から)



7. SK298(西から)



8. SP164(北から)



1. SC203(南から)



2. SD203ベルトA(南から)



3. SD203ベルトB(南から)



4. SD261-A土層(東から)



5. SD263(西から)



6. SD263土層(西から)



7. SK203遺物出土状況(西から)



8. 調査前状況(南から)

# 1. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

平成25年(2013年)3月26日付けで埋蔵文化財審査課に西部ガス株式会社供給管理センターから博多区山王1丁目から博多駅南4丁目にかけて行われるガス管入れ替え工事にもなう埋蔵文化財有無の事前調査照会(24-2-1174)が提出された。工事は広範囲にわたるものの、工事立会等の結果、多くが既存ガス管の埋設時等に掘り下げた部分の再掘削で今回は遺構の破壊には至らないため調査対象から除外し、今回新規に掘削を行う駅南4丁目地内の30mを平成25年8月26日から9月6日の期間で調査することとした。調査は埋蔵文化財調査課の担当者立ち会いの下に原因者側がガス管理設地点を鳥栖ロームの上面まで掘り下げ、その後発掘調査を開始した。

調査中は工事関係者をはじめ多くの方々との協力を得た。記して感謝したい。

## 2 調査の組織

調査主体 福岡市教育委員会(発掘調査 平成25年度:整理報告 平成26年度)

調査統括 福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課

埋蔵文化財調査課長 宮井善朗(平成25年度)

常松幹雄(平成26年度)

同課調査第2係長 榎本義嗣(平成25年度)

同課調査第1係長 吉武 学(平成25年度)

庶務 埋蔵文化財審査課管理係 川村啓子(平成25・26年度)

調査担当 埋蔵文化財調査課 屋山 洋

埋蔵文化財審査課事前審査係 森本(平成25年度)

作業員 石川洋子 北条こず江 吹春憲治 桑原美津子 中村桂子 岡部安正 芹川淳子

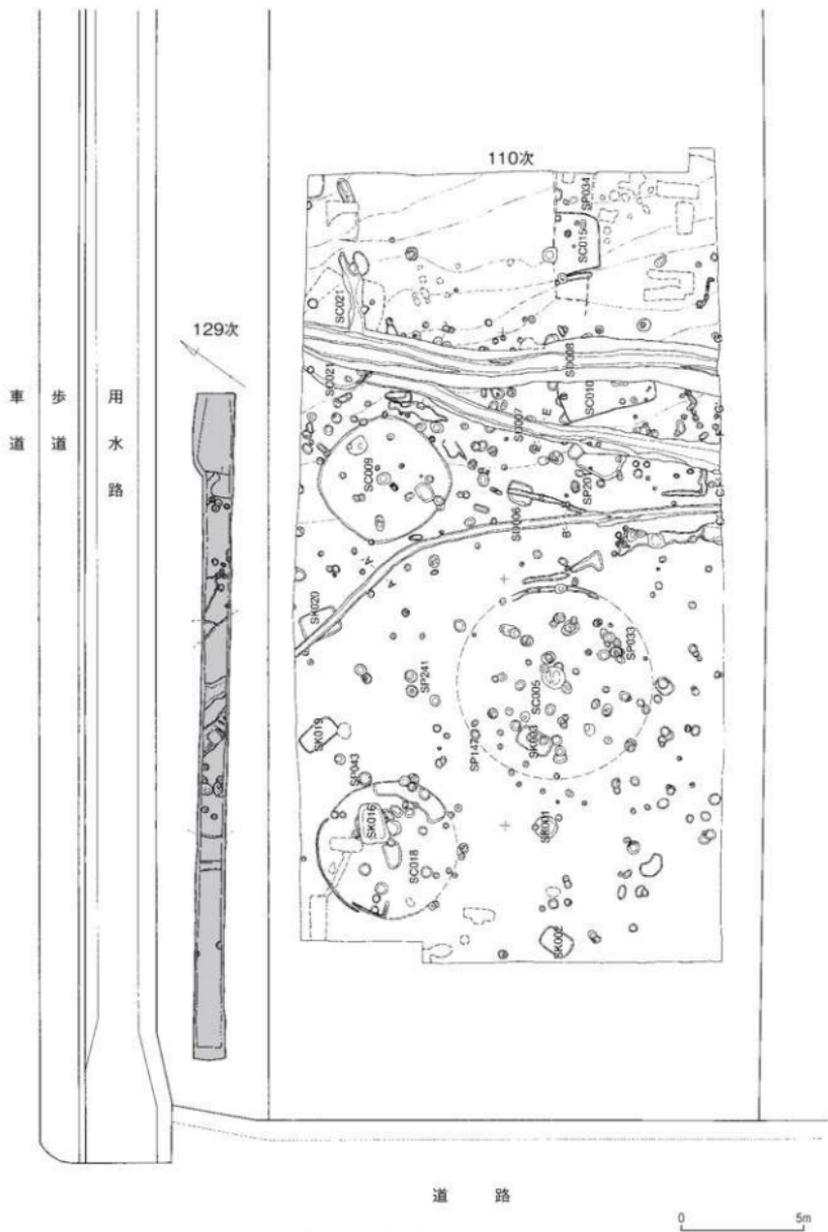
林春治郎 鷺津真二郎 高手與志子

技能員 井上加代子 大庭友子 米倉法子 埋蔵文化財調査員 佐々木蘭貞

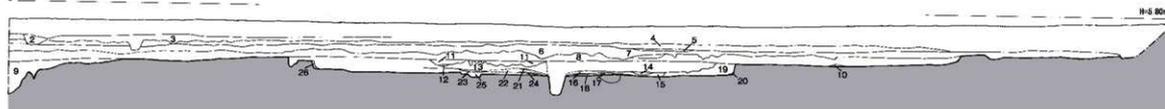
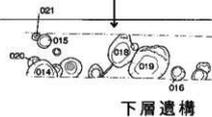
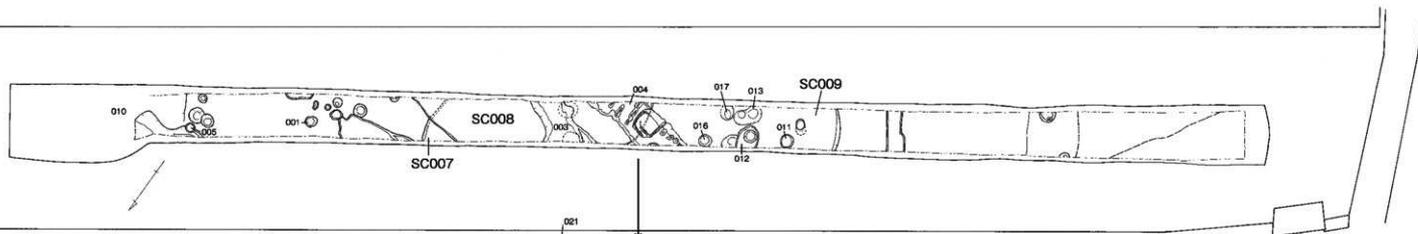
整理作業員 坂口龍子 臨時職員 上方高弘



第23図 調査地点位置図(1/4000)



第 24 図 調査範囲図 (1/200)



- |              |                              |
|--------------|------------------------------|
| 1 現代盛土       | 14 橙色土 (ロームのブロック)            |
| 2 構瓦         | 15 黒褐色土 2~4mmのロームブロックを少量含む   |
| 3 現代盛土       | 16 橙色土 (ローム)                 |
| 4 灰褐色土 (耕作土) | 17 橙色土 (ローム)                 |
| 5 灰褐色土       | 18 暗茶褐色土 細かなロームブロックを含む       |
| 6 近代盛土       | 19 茶褐色土 2~10mmのロームブロックを多量に含む |
| 7 灰褐色土       | 20 暗茶褐色土 ロームブロックを少量含む        |
| 8 灰土 (耕作土)   | 21 橙色土 (ローム)                 |
| 9 暗茶褐色土 (濺?) | 22 暗茶褐色土 ロームブロックを少量含む        |
| 10 暗茶褐色土     | 23 橙色土 (ローム)                 |
| 11 灰色シルト     | 24 橙色土 (ローム)                 |
| 12 灰色粗砂      | 25 暗茶褐色土 ロームブロックを含む          |
| 13 茶褐色土      | 26 暗茶褐色土                     |

## II. 調査の記録

### 1 調査の経過

8月26日午前中に表土剥ぎと機材の搬入を行い、午後から清掃と遺構検出を行った。27日から作業員を増やして遺構の掘り下げを開始し、28日は掘り下げと遺構実測の続きを行った。29日午前中に竪穴式住居の掘り下げが終了、昼前に全景の写真撮影。午後は実測と片付けを行い夕方調査機材を撤去して発掘調査を終了した。

### 2 調査の概要

調査中央で110次調査区から続く弥生時代の溝を検出した他、2～3軒の竪穴式住居と柱穴群、調査区東端では溝と思われる掘込みを確認した。

### 3 遺構と遺物

各遺構から出土した遺物に関してはP42の表6に記載している。

1) 竪穴式住居 調査区中央部分で検出した。2軒が切り合っているのは確実にSC006・007としたが、SC006は径8m以上となり110次調査区まで延びるはずであるが、実際には延びないことから小型住居の切り合いの可能性を考え、SC006の下半の遺物をSD003から東西で分けてSC008・009とした。底面はほぼ平坦で2軒が切り合っている確証は見つからなかった。第27図001～004はSC006出土遺物である。001は甕口縁で弥生前期後半、002は甕底部、003は滑石製紡錘車の未製品、004は石包丁の破片である。

SC007 (第26図) SC008に切られており、検出面積が狭く規模等は不明である。おそらく径3～4m程の円形住居と思われる。出土遺物(第27図005)は弥生時代中期後半頃と思われる甕口縁で他に黒曜石片が1点出土した。

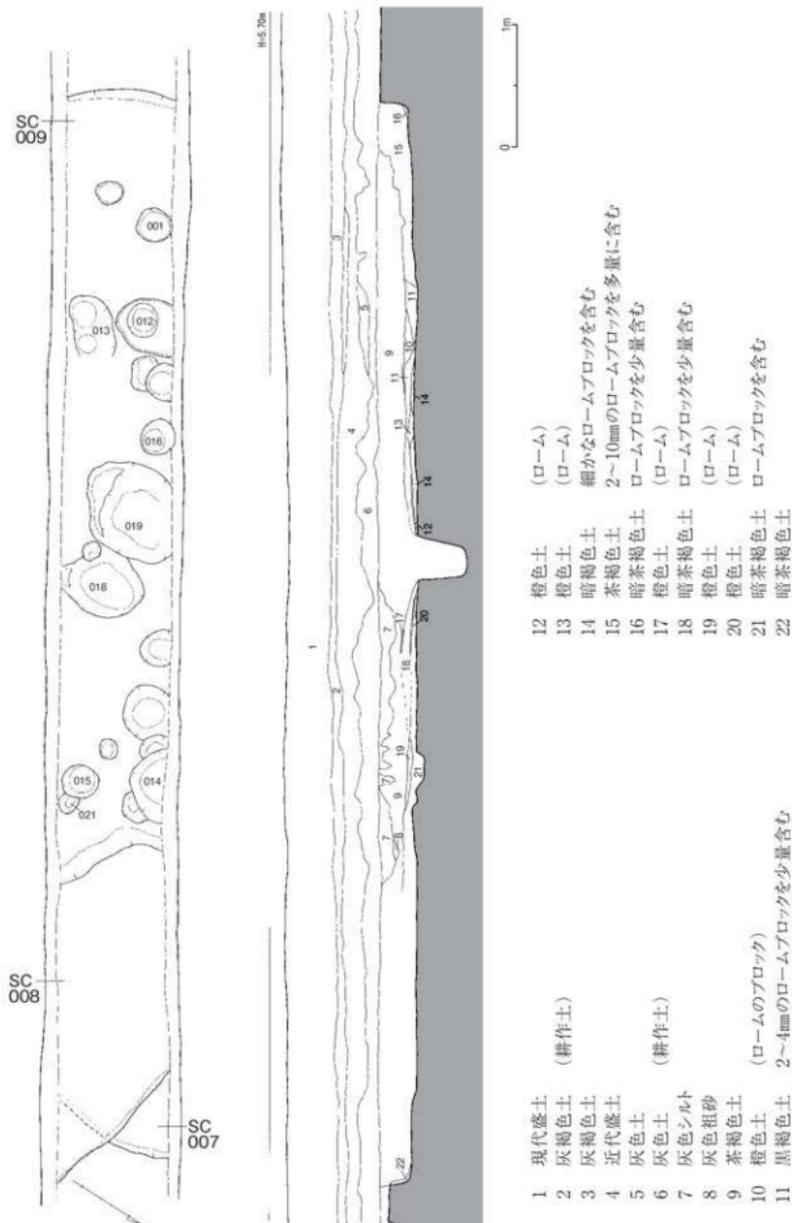
SC008 (第26図) 東端はほぼ直線で、方形もしくは小判型の竪穴式住居で遺存深は30cmを測る。埋土は茶褐色を呈す。第26図の土層図では9・21層を分ける線が左から2.3m程のところまで途切れるか、このあたりで上層の茶褐色土と下層の暗茶褐色土の境が曖昧になりそれから東側とは様相が異なるため、SC008・009の2軒に分かれるならこのあたりに境界があるものと思われる。遺物は土器小片の他黒曜石小片が23点出土した。

SC009 (第26図) 円形の竪穴式住居で遺存深は008同様30cmで床面はほぼ平坦である。26図の土層図では中央部に貼床らしき薄いローム層が2層みられる。調査区内では炉は確認できなかった。遺物は時期の判るものは弥生時代前～中期と思われる土器小片が多く出土した他、砂岩製の砥石(第27図006)が1点と黒曜石片が18点出土した。

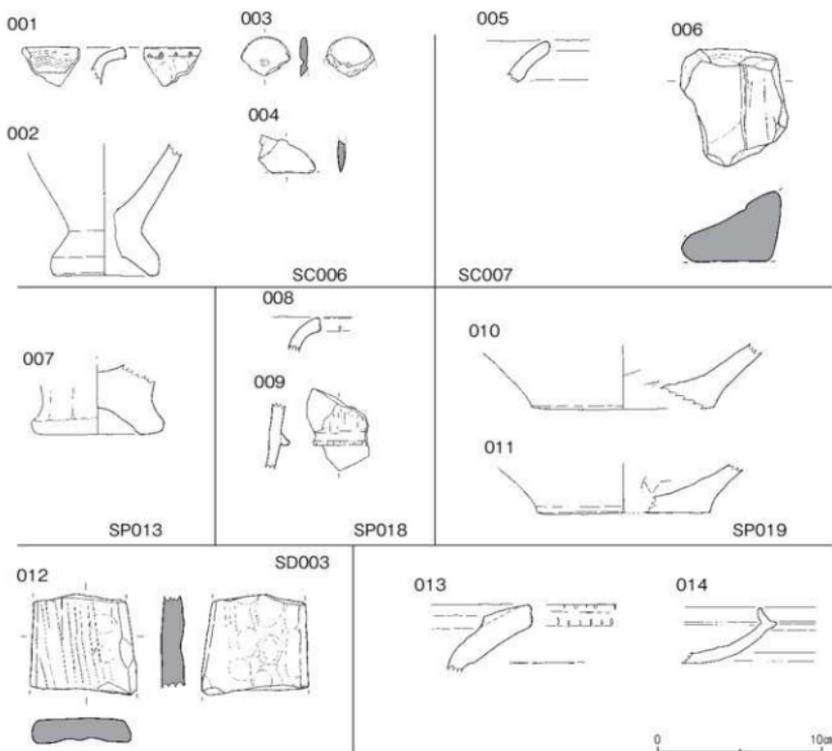
2) 溝 SD003・004は110次調査のSD006が分岐したと思われる。溝は110次・90次と延びており、時期は弥生時代中期に掘削され、古墳時代前期に埋没したとされる。

SD003 調査区の中央部に位置し竪穴式住居を切る東西方向の溝で両縁はかなり蛇行している。幅58～80cm、深さ17cmを測り、埋土は灰色シルトである。出土遺物(第27図012)は不明土製品である。橙色を呈し焼成は良好。片面にハケ目のような条痕がみられ、もう片面には指オサエ痕が多く見られる。その他には時期不明の土器小片が19点と黒曜石片4点が出土した。

SD004 SD003の50cm東側に位置する東西方向の溝で幅75cm前後、深さ5cmを測る。底面中央に径55cm、深さ10cmの方形の掘り込みがあり、端に沿って幅5cm、深さ2cmの溝が巡る。溝は北



第 26 図 竪穴式住居実測図 (1/40)



第27図 出土遺物実測図(1/3)

辺には一部しかみられないが、南辺では2重になっている。周囲の底面にも細長い掘り込みが幾らかみられる。遺構の性格等は不明である。埋土は灰色シルトで弥生時代の甕底部が1点、土器小片が34点、黒曜石片が5点出土した。

**SD010** 調査区東端に位置する。溝と思われるが110次調査では対応する遺構は検出されていない。調査区内では落ち際の確認のみで底部は確認できなかった。遺物は弥生時代と思われる器台、壺などが出土している。

### 3) その他の遺物

第27図007～011は竪穴式住居内の柱穴から出土した遺物であるが、住居に伴うかは不明である。007はSP013から出土した甕底部、008、009はSP018から出土した。008は弥生前期後半の甕口縁、009は甕胴部で突帯が付く。010・011はSP019から出土した壺底部である。013は壁面清掃時に出土した弥生時代前期の壺口縁、014は検出時に表採した、須恵器坏である。

#### 4. 小結

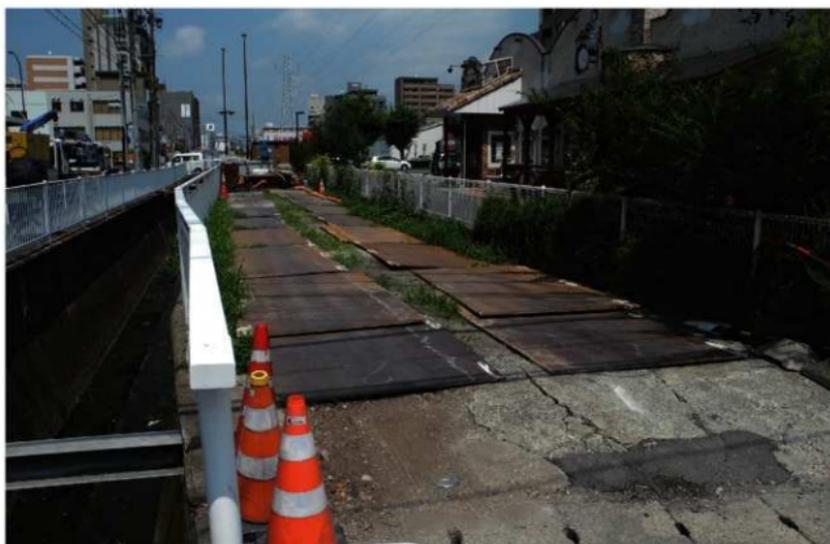
ガス管理設に伴う調査のためトレンチ状の調査となり遺構の性格等に不明な点が多く、南東側に隣接する110次調査に新たな知見を加えることはできなかった。SC008・009については床面が平坦で段がないことから1軒である可能性もあるが、径8m以上になると110次調査区まで延びる可能性が高いが、110次調査区でみられないのは削平のため消滅したものであろうか。

表 6

遺構番号	図面番号	性格	時代	形状	径 (cm)	深さ (cm)	遺物	備考
001	3	柱穴状遺構	弥生時代?	円	25×23	21	土器片(1点 弥生時代?)	
002	3	柱穴状遺構	不明	楕円	27×25	15	土器片(1点 不明)	
003	2	溝	不明		85	23	土器片(19点 不明) 敷土は弥生~古墳時代、黒曜石割片(4点)	
004	2	溝	弥生時代?		79	18	藤原部(弥生時代)、土器片(小片34点 弥生時代?)、黒曜石割片(5点)	
005	3	柱穴状遺構	不明	円	20	4	土器片(1点 不明)	
006A	2-3	竪穴式住居					竪(弥生時代中期)、土器片(小片 多 不明)、黒曜石(32点) 自然産がある破片が多い、不明石製皿(真鍮?)	006A007~009の埋土上半をまとめて掘ったもの、遺物のほとんどは小片である。
006B	2-3	竪穴式住居	弥生時代中期前半				竪(弥生時代前期~中期前半)、土器片(小片 多量 弥生時代前期~中期)、石器丁?、黒曜石(45点) 自然産がある破片が多い(1点反色の破片あり)	
007	竪穴式住居	弥生時代 中期後半?	円形	不明	28		竪(弥生時代中期後半?)、土器片(小片 6点)、黒曜石(割片 1点)	小片のみ 実態不可
008	竪穴式住居	弥生時代	不明	2m以上	28		土器片(小片 多 弥生時代)、黒曜石(23点)	土器は小片のみで実態不可
008下		弥生時代					土器片(小片 多 弥生時代?)、土器片(12点 不明)	土器は小片のみで実態不可
009	2	竪穴式住居	弥生時代	円形	2.5m以上	19	土器片(小片 多 弥生時代前期~中期) 磁石(砂煎)、黒曜石(18点)	土器は小片のみで実態不可
010	3	溝?土坑?			遺存幅 80	65	竪(弥生時代)、香?弥生時代?、土器片(弥生時代から古墳時代?)	要線は前半のため不明
011	2	柱穴状遺構		円		27	11 土器片(小片2点 不明)	
012	2	柱穴状遺構		円	28×25	59	竪(1点 弥生時代中期前半)、土器片(11点)、黒曜石(2点)	
013	2	柱穴状遺構	弥生時代中期	楕円	59×33	63	竪(弥生時代中期前半)、土器片(小片多)	
014	2	土坑・柱穴状遺構		楕円?	60×(27+a)	70	土器片(12点 不明)	北縁が調査区外に及びる
015	2	柱穴状遺構		楕円	32×27	61	竪(弥生時代中期)、土器片(5点 弥生時代?)	
016	2	柱穴状遺構		円		28	59 土器片(小片2点 不明)	
017	2	柱穴状遺構		楕円	(28+a)×25	5	土器片(小片 6点 不明)、黒曜石(1点)	
018	2	土坑		不整形円	(69+a)×54	48	竪(弥生時代前期後半~中期前半)、香?口縁、土器片(小片 24点 弥生時代?)、黒曜石(1点)	南縁が調査区外に及びる
019	2	土坑	弥生時代前期後半?	不整形	93×76	45	竪(弥生時代前期後半?)、香煎部(弥生時代前期)、土器片(13点 不明)、黒曜石(1点)	北縁が調査区外に及びる
020	2	柱穴状遺構		円?		26	54 土器片(小片1点 不明)	014Cに切られる
021	2	柱穴状遺構		楕円	(17+a)×17	8	土器片(小片1点 不明)	015Cに切られる
Sc内ベルト調査区壁面							土器片(小片3点 不明)、黒曜石(3点) 漆器破片(1点 6世紀後半)	
検出時表層							竪(弥生時代中期前半)、磁石(弥生時代前期末~中期前半)、土器片(小片 多 不明)、黒曜石(1点)	



1. 調査区全景(北東から)



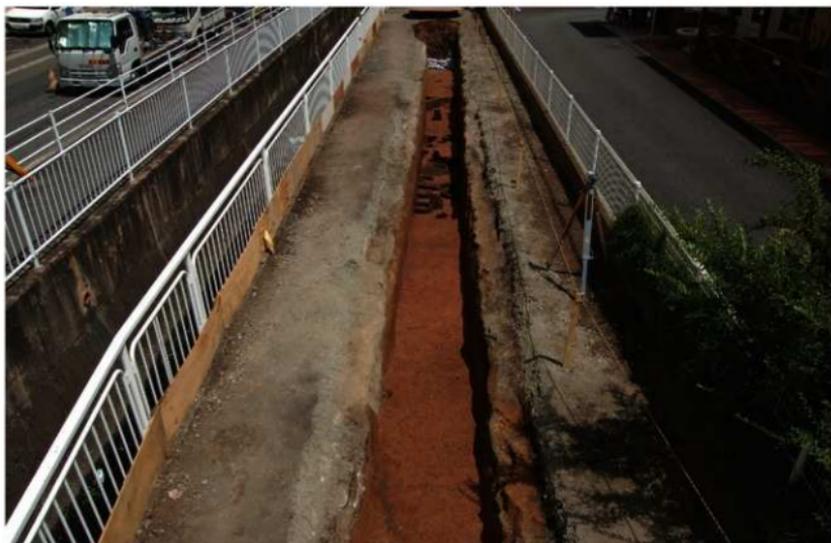
2. 調査前状況(南西から)



1. 調査区全景(北東から)



1. 住居部分拡大(北東から)



1. 調査区全景(南西から)



2. 竪穴住居南壁土層西側(北西から)



3. 竪穴住居南壁土層中央部(北西から)



4. 竪穴住居南壁土層東側(北西から)



5. SD010(東から)

---

ひ え  
**比 恵 68**

—比恵遺跡群第127次・129次調査報告—  
福岡市歴史文化財調査報告書 第1272集

2015(平成27)年3月25日発行

発行 **福岡市教育委員会**  
福岡市中央区天神1丁目8番1号  
(092)711-4667

印刷 **有限会社 プリコム**  
福岡市博多区冷泉町1-20  
(092)282-5321

---

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ひえ68							
書名	比恵68							
副書名	比恵遺跡群第127次・129次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1272集							
編著者名	屋山洋							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	福岡市中央区天神1丁目8-1							
発行年月日	2015年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひえいせきぐん 比恵遺跡群 第127次調査	ふくおかしほかたぐ 福岡市博多区 比恵遺跡群 博多駅南4丁目 120番1、120番3	40132	0127	33° 34' 44"	130° 25' 44"	20130401 ) 20130614	359㎡	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
比恵遺跡群 第127次	集落	弥生時代中期～ 古墳時代前期		掘立柱建物 土坑・溝		弥生土器・土師器・ 須恵器・貿易陶磁		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひえいせきぐん 比恵遺跡群 第129次調査	ふくおかしほかたぐ 福岡市博多区 比恵遺跡群 博多駅南4丁目地内	40132	0127	33° 34' 56.9"	130° 25' 42.3"	20130826 ) 20130829	24.2㎡	ガス 管理設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
比恵遺跡群 第129次	集落	弥生時代中期～ 後期		掘立柱建物・溝		弥生土器		
要約	127次調査では竪穴式住居や土坑、溝など弥生時代中期～古墳時代前期の遺構を検出した。全体的に遺構の密度は濃い。129次調査では弥生時代中期の竪穴式住居と溝を検出した。							